

令和元年度事業報告書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

特定非営利活動法人おっちラボ

1 事業年度内の理事会・総会開催概要

①理事会

- ・平成31年4月1日
開催場所：みなし決議
出席者数：理事2名（理事人数 3名）
議決事項の概要：理事[]氏との業務委託契約の締結について
- ・令和元年5月23日
開催場所：三日市ラボ
出席者数：理事3名、監事1名（理事人数 3名）
議決事項の概要：第6期事業報告および収支決算について
第7期事業計画および予算案について
定時社員総会の収集について
- ・令和元年11月5日
開催場所：オンライン会議システム
出席者数：理事3名（理事人数 3名）
議決事項の概要：個人情報保護適正管理規定の制定について
就業規則改訂について
- ・令和2年3月27日
開催場所：三日市ラボおよびオンライン会議システム
出席者数：理事3名（理事人数 3名）
議決事項の概要：第8期事業計画及び予算案について
退職金支給に関する諸規程の制定及び改定について
退職慰労金について

②総会

- ・令和元年5月29日
開催場所：三日市ラボ
出席者数：8名（うち表決委任者2名）／正会員数 11名
議決事項の概要：第6期収支決算について

2 事業の概要および成果 別紙参照

3 事業の実施に関する事項

①特定非営利活動に係る事業

事業名	実施場所	事業実施の期間 (契約期間)	従事者数	事業費 (単位：円)
課題解決型 人材育成・ 確保事業	雲南市内	H31.4.1～R2.3.31	4 名	経常収益 23,192,711 経常費用 ▲22,602,014 収支合計 590,697

以上のほか、次の事業を実施した。

	視察事業	研修事業
経常収益	1,001,000	689,400
経常費用 (人件費除く)	▲0	▲338,625
収支合計	1,001,000	350,775

②その他事業

事業名	実施場所	事業実施の期間 (契約期間)	従事者数	事業費 (単位：円)
三日市ラボ 管理事業	雲南市内	H31.4.1～R2.3.31	1 名	経常収益 1,414,362 経常費用 ▲1,677,903 収支合計 △ 263,541

以上のほか、次の事業を実施した。

	商品販売事業
経常収益	109,050
経常費用 (人件費除く)	▲94,579
収支合計	14,471

令和元年度 特定非営利活動法人おっちラボ 事業報告書

【目 次】

1. 事業のねらい
2. 前年度までの実績
3. 事業実施体制
4. 事業実施内容とその成果
5. 今後の取り組み及び課題

主な事業の成果

事業名	成果
幸雲南塾2019	参加者は途中入塾者も含めると4組34名。うち2組が一般法人を設立、1組が事業実施のための資金調達を行った。残る1組も継続して啓発イベントを実施するなどし、各チームが未来の雲南に必要な仕組みづくりを主体的に継続している。
幸雲南塾アカデミー	参加者は昨年度から49人増え、延べ194名だった。アカデミー開催によって、話題提供をしたローカルチャレンジャーと参加者が連携し、毎月活動を継続するなどアクションに繋がっている。
スペシャルチャレンジ・ホープ事業	前期採択者1名は6地域自主組織および1市内事業所とのプロジェクト協働を開始し、後期採択者3組は採択期間が短かった中でできる限りの実践を試みた。何れも事業による地域への波及効果が期待できるが、制度による効果をさらに大きくするため、次年度以降、事業のブラッシュアップ期間及び採択期間をより多く確保できる制度設計に改良する契機となった。
ローカルベンチャー協議会	協議会や同プログラムを通じた雲南エリアでのチャレンジ6件（※）、調整中案件6件（※）、研究プロジェクト3件。
三日市ラボ活用	1階の利用は2階入居者関係者又は行政関連の視察等で全体の85%を占めている。幸雲南塾塾生の勉強会やイベント利用が毎月あり、地元のチャレンジャーたちが次のアクションを考えるための拠点となっている。

※企業チャレンジを含む。

1. 事業のねらい

雲南市は、平成27年度から平成36年度（当時）までの10年間のまちづくりの目標と方向性を示す「第2次雲南市総合計画」及びこれを基に策定した「まち・ひと・しごと創生 雲南市総合戦略」において、若者や地域自主組織等による地域課題解決に向けた取り組みを促進

し、多様な人材や団体等が課題解決にチャレンジする総働のまちづくりを推進することとしている。子どもから若者、シニア世代まであらゆる世代を通してチャレンジに優しいまちを目指している。

雲南市をはじめ多くの地方で、課題解決や仕事の創生等による持続可能な地域づくりの推進や定住対策などの重要性が高まっている。その中でも、20～30代の若者世代は地方創生の即戦力として活躍が期待されている一方、就学や就職で市外へ流出する割合も高くなっている。若者世代にとって魅力的なまちづくりに取り組み、雲南市で課題解決にチャレンジしたいと思う若者を増やしていくことが重要である。

地域づくりや地域の課題解決を、実践を通して学ぶ幸雲南塾は、県内でも先進的な取り組みとして、2011年に第1期がスタートして以降、昨年度までに延べ132名の卒業生（ラボアカデミー修了者を含む）を輩出してきた。今年度も、幸雲南塾を開講して引き続き地域課題にチャレンジする若者を発掘・育成した。また、さらに幅広く市民にまちづくりに興味を持ってもらう機会として、幸雲南塾アカデミーを昨年度に引き続き開催した。

また雲南市が昨年度から開始したスペシャルチャレンジ制度のうち、ホープ事業の事務局として、事業化や新規事業開発を目指す同制度採択者を対象として、金融機関やアドバイザーとともに伴走（補助）を行った。

さらに、ローカルベンチャー推進協議会の雲南市におけるローカル事務局機能を担い、雲南市におけるベンチャー育成の土壌づくりや、都市部の起業家人材と雲南市の地域課題とのマッチングを図った。

2. 前年度までの主な実績

平成23（2011）年度 雲南市が主催する次世代育成事業『幸雲南塾～地域プロデューサー養成講座～』として開講。社会起業や地域貢献を志す若者の企画立案と実践をサポート。第1期（13名卒業）

平成24（2012）年度 第2期（11名卒業）

平成25（2013）年度 第3期（11名卒業）、塾の卒業生による任意団体「おっちラボ」設立

平成26（2014）年度 第4期（25名卒業）、NPO法人おっちラボ設立

平成27（2015）年度 第5期 幸雲南塾（4組6名卒業）、ラボアカデミー（9名修了）

平成28（2016）年度 第6期（2016年5月～2017年2月）

幸雲南塾（3組6名卒業）ラボアカデミー（14名修了）

平成29（2017）年度 第7期（2017年6月～2018年1月）

幸雲南塾（4法人11名卒業）

平成30（2018）年度 第8期（2018年6月～2019年1月）

幸雲南塾（1名）幸雲南塾START（6組7名修了）

平成31・令和元（2019）年度 第9期（2019年7月～2020年1月）

幸雲南塾（4組34名）

平成23年度に市が次世代育成事業として始めた『幸雲南塾～地域プロデューサー育成講座～』は、今年度で9期目を迎える。平成25年に塾の卒業生たちが塾生を相互支援する仲間のネットワーク強化のため立ち上げた任意団体「おっちラボ」は、平成26年にNPO法人化し、同年より幸雲南塾の事務局を担っている。

<卒業生の活躍>

2018年度末時点で4法人88名（ラボアカデミー修了者を加えると延べ132名）の卒業生を輩出した。卒業生たちは、幸雲南塾のプレセミナーで事例発表を行ったり、県外からの視察があった際に活動報告を行ったり、現役塾生の相談に乗ったりと、幸雲南塾のサポーターとして幅広く活躍している。

また、卒業生同士のネットワークによって自分たちの活動の課題解決を行うなど、相互に支援し合う関係性も継続している。さらに、今年度は、卒業生が再度幸雲南塾に入塾し、進

めている事業のさらなる進化を目的に切磋琢磨する動きもあり、幸雲南塾がチャレンジのプラットフォームとなっているように感じている。

＜プログラムのリニューアル＞

第4期までの幸雲南塾は、一本のプログラムで実施してきたが、参加者のニーズが幅広いことから、2015年からは、伴走型人材育成プログラム『幸雲南塾』と地域づくりのはじめの一步を踏み出す定例勉強会『アカデミー』といった複数のプログラムを実施するスタイルとなった。

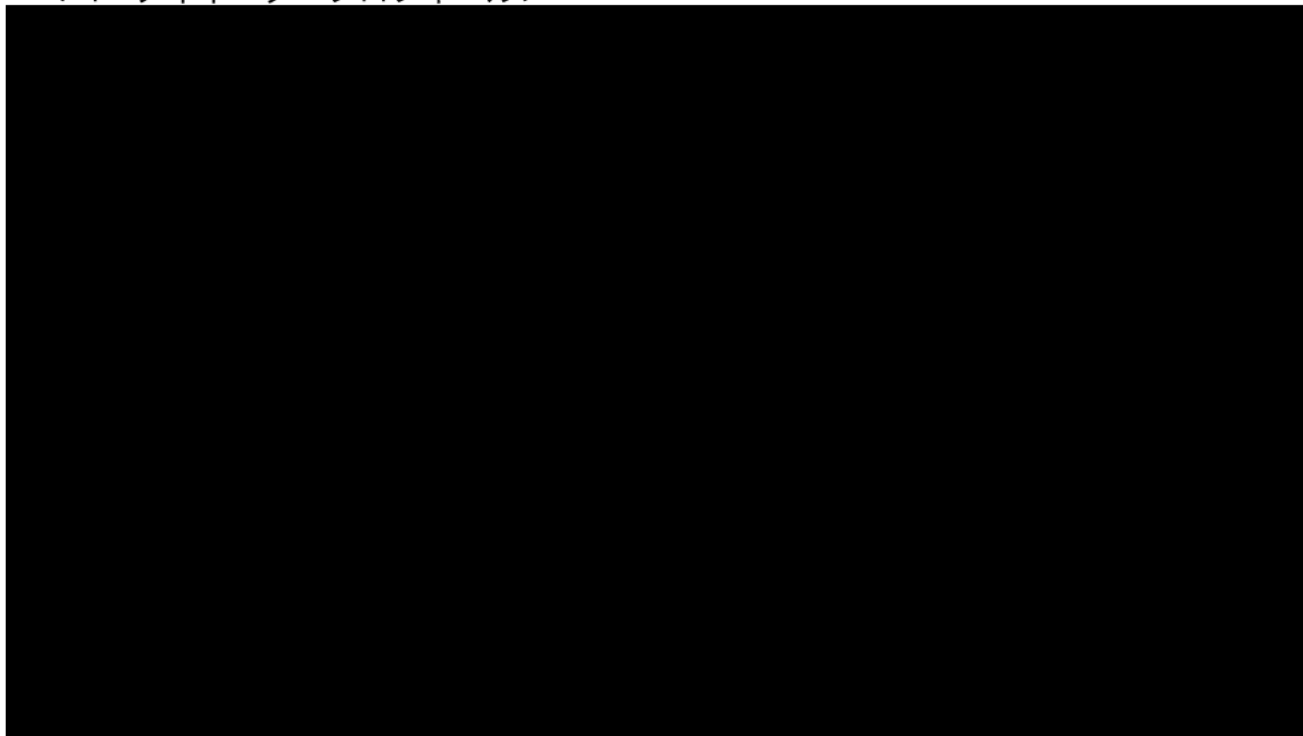
今年度は個々のチャレンジがより促進される「仕組み」をつくることに注力できるようプログラムを再構築し、事務局は仕組みづくりにチャレンジするチームが効果的に活動を進めるためのサポーターという立ち位置から支援をおこなった。今期の『幸雲南塾2019』は、会議体組成支援を通じて暮らしと地域をよりよくするための仕組みづくりを支援し、また個別のチャレンジの相互相談窓口として塾生以外も参加できる『チャレンジャーズカフェ』、広く学習や交流機会を創出する『幸雲南塾アカデミーなどのプログラムも実施した。また、NPO法人ETICが主催をするローカルベンチャー推進協議会も活用し、都市部人材とともにプランを磨きあげる機会を創出し、チャレンジャーがより広い視野で、幅広い人材と出会い関わる機会を作ることを実施した。

3. 事業実施体制

(1)コーディネーター

一昨年度より、市民への若者のチャレンジに対する理解を促し、それまでの経験で培われた多様なスキルを活かし、活動するコーディネーターを配置した。本年度もこの体制を継続し、ファンドレイジング・マネタイズ・組織基盤構築・組織運営などを手がける人材を誘致し配置することで若者チャレンジを支援する中間支援組織としてのサポート力を強化した。また、若者チャレンジ支援コーディネーターに加え、ファンドレイジング・マネタイズなどのノウハウは外部アドバイザーとの連携により、充実した体制を整備した。

＜コーディネータープロフィール＞



(2)外部アドバイザー

＜外部アドバイザープロフィール＞

a. ファンドレイジング（資金調達）、組織マネジメント等のアドバイザー

雲南市との関わり	地域づくり勉強会「地域型ファンドレイジングを学ぶ会」（2014年）、幸雲南塾第4期最終報告会審査員・ワールドカフェファシリテーター（2014年）、2015年1月～2015年3月「社会起業のためのマネジメントスクール」講師。当NPOのファンドレイジング、組織運営マネジメント、ボランティアマネジメントなどに対するアドバイス専門官として理事も務める。平成27年度より雲南市地方創生総合戦略推進アドバイザーに就任。
移転するノウハウ	ファンドレイジング（資金調達）、運営マネジメント、事業計画立案、組織基盤強化に関するノウハウ

b. マネタイズ（収益事業化）のアドバイザー

雲南市との関わり	幸雲南塾4期（2014年）第2回講師。中山間支援人材育成事業（2014年）講師。塾卒業生とも良好な関係性が構築されており、マネタイズのノウハウを移転するに際し、最適なアドバイザーとして推薦した。
移転するノウハウ	地域資源の活用、コミュニティビジネスの立ち上げ、マネタイズ（収益事業化）に関するノウハウ

4. 事業実施内容とその成果

令和元年度は、以下の事業を実施した。※各項目について報告書末に書類を添付

4.1. 人材育成プログラム（幸雲南塾2019）の企画運営

- 4.2. 幸雲南塾アカデミー（有志勉強会）の企画・運営
- 4.3. スペシャルチャレンジ・ホープの伴走支援
- 4.4. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務
- 4.5. 実践型インターンシップの活用
- 4.6. 三日市ラボの運営
- 4.7. コーディネーターの支援力向上

4.1. 人材育成プログラム（幸雲南塾2019）の企画・運営

「幸雲南塾2019」は、昨年に引き続き伴走型人材育成プログラムとして、おっちラボスタッフがコーディネーターとして、3ヶ月から6ヶ月間会議体組成支援を行った。各チームが仕組みの実現に向けて「自律的に活動できる状態」になることを目指す、実践家育成の塾として開講した。

塾生の募集に関して、今期は「幸雲南塾2019開講特別講座」として事前説明会を実施した。開講講座の参加者は講演やワークを通じ地域の未来とそこに必要な仕組みについて考え、意見を交わした。

参加者はその後、「地域に生み出したいインパクト（課題の重要性・緊急性、受益者数、他地域への波及性などの要素から総合的に判断）」とそれに必要な仕組みを、主体的に継続協議/実行するチームの組成を行ったうえで、入塾するか否かを選択し、事務局はそれに基づき参加者との関わり方を検討するという、相互選考を行った。

その結果、事前説明会に参加した参加者から、住民誰もが地域づくりに関わることができる仕組みづくりや、安心安全な地域づくりのためのエネルギー自給の仕掛けについて調査検討する2組を塾生として選出した。

その後11月からは、高校生の地域活動を促進するための地域通貨を活用した仕掛けづくりや、大学生インターンの受け入れ事業の継続実施のための民間事業化などに取り組むための2組を主催側と協議のうえ塾生として選出した。

また、幸雲南塾がチーム制であることなどから、本年度は「チャレンジャーズカフェ」を開始した。チームを組成するまでではない個人など、幸雲南塾に入塾する手前のチャレンジャーが気軽にチャレンジについて話し、相談し合う場として月に一度4ヶ月間実施した。

<事業のねらい>

- (1)社会起業家や地域貢献を志す若い人材の発掘及び育成
- (2)若い人材の育成による地域課題の継続的な解決

<塾生> 幸雲南塾（前期入塾）：2組27名、幸雲南塾（後期入塾）：2組7名

【実施内容・幸雲南塾】

月	日	取り組み実施内容	
6月	30日 (日)	幸雲南塾2019開講記念講座 ●目指すゴール：幸雲南塾入塾候補チームが複数組成される	
		対象（優先順）	目指す状態
		(1)今年の幸雲南塾の候補テーマへの関心/活動者 例)コミュニティ財団設立準備委員会 坂本美緒さん おたがいさま雲南さん 林業関係者・関心者 芸術関係者	・幸雲南塾入塾に向けた、継続して主体的に協議を行うチームを結成する ・活動の次のステップが見える
		(2)上記チームメンバー候補	上記チームへ参画する
		(3)さらに広いフォロワー層（市民）	継続して関心を持つ →幸雲南塾アカデミーなどに参加する

		●方向性 雲南の未来と、そこから逆算して今必要なものは何かを具体的に想像し、実現に向けて話し合いたいというムードを高める。 →実際にチームを作る（チャレンジの生態系） ・まちの可能性を開花させる ・子や孫に残す雲南を考える時間
7月	28日 (日)	開講講座よりこの日まで、塾応募期間 →2組が応募、審査の上入塾（前期）
8月	9日 (土) ～ 10日 (日)	幸雲南塾キックオフ合宿 ●目的 ・共有ビジョンを描く（この仲間で何をどれくらい目指すか） ・テーマゼミの仲間の望みを知る ●内容 NPO法人CRファクトリーより ████████ 氏を講師に迎え、入塾した2チームにそれぞれに対し、自己開示のワークショップおよび対話を通じたチームビルディング支援を行った。
10月	24日	年度途中より入塾相談を受けていた2組が入塾（後期）
11月	17日 (日)	雲南市役所主催「雲南ソーシャルチャレンジ大発表会」 ・”チャレンジャーズピッチ”にて、ぐるぐるもりもりチームが発表 ・”チャレンジワークショップ”にて、うんなん市民財団（仮）設立準備プロジェクトがワークショップ開催、および別途ブース出展
12月～1月		幸雲南塾2019最終報告会に向けた発表練習
2020年 1月	25日 (土)	幸雲南塾2019最終報告会 ●目的 塾参加チームそれぞれの参画者を増やす ・増やしたい参画者 →市民財団：寄付者 →ぐるぐるもりもりチーム：上映会来場者 →地域通貨：高校生に手伝って欲しいアイデア提供してくれる人 →U.C.C：インターン応援者 ●内容 ・4チーム塾生発表 ・パネルディスカッション 「”チャレンジが生まれるまち”を支えるフォロワーとは」 ・ブースセッション ・修了式 ・交流会 →幸雲南塾2期生 ████████ 氏によるドリンク提供 →幸雲南塾5期生 ████████ 氏 企画の演劇公演 (劇団ハタチ族 ████████ 氏による演劇)

<プランおよび個別支援>

今期の塾では、4組の塾生に対し支援を実施した。

おっちラボスタッフによる支援に加え、別途NPO法人CRファクトリーが各チームに対し、直接コミュニティ（チーム）形成支援を数回（前期入塾2組に対して8月※上記参照・11月・3月、後期入塾1組に対して11月）実施するとともに、チーム支援に対しておっちラボスタッフとも面談を行い、種々の助言を受けた。

チーム名 (チームメンバー) 【プラン】	支援内容
ぐるぐるもりもりチーム [redacted] 【雲南市におけるエネルギー自給の仕組みについて検討】	■9月より、チーム中心メンバーである[redacted]氏へ対して週一回の定期面談を実施。進捗の共有に加え、ビジョンの整理やプランの具現化に向けた様々な実践を促すエンパワメントの場とした。 ■心身の健康をもたらす関係支援について[redacted]氏（産前産後ケアはぐ）[redacted]氏（コミュニティナース）と接続、面談。 ■エネルギー事業に関する情報収集を目的として、「おだやかな革命サミット（都内開催）」への参加費および交通費補助。 ■チームメンバーのビジョン設定とその提供価値に関し、株式会社エンパブリック[redacted]氏と面談。 ■多様な働き方を学ぶため、ローズマリー合同会社とおおぞら福祉会へ接続。 ■エネルギー事業に関する現地アドバイスと関心層への啓発のため、えねみらとっとり[redacted]氏・コミュニティエナジー株式会社代表[redacted]氏を招聘し勉強会を実施。
うんなん市民財団（仮） 設立プロジェクトチーム [redacted] 【雲南市におけるコミュニティ財団の設立】	■アドバイザーとして、[redacted]氏（みんなでつくる財団おかやま理事・全国コミュニティ財団協会常務理事・事務局長）と月に一度面談を実施。設立に向けて様々な助言を受けた。 ■「東近江三方よし基金」および「みんなでつくる財団おかやま」への先進事例視察費補助。 ■愛知県で開催された「全国コミュニティ財団協会6回年次大会」への参加に伴い、旅費の補助。 ■次年度以降設立するコミュニティ財団の運営等に関し、公益財団法人京都地域創造基金の[redacted]氏へ相談。助言を受けた。
コミュニティ通貨導入検討チーム [redacted] 【雲南市におけるコミュニティ通貨導入】	■コミュニティ通貨の設計と導入の実践者である株式会社カヤックの[redacted]氏、[redacted]氏と9月（鎌倉）、11月、12月（オンライン）、2月に面談を実施。 ■コミュニティ通貨のプロトタイプ制作に向けた資金調達に関して、一般財団法人社会変革推進財団の[redacted]氏、[redacted]氏と12月、1月、2月、3月に打ち合わせ。一部は上記カヤックとの面談に同席。
U.C.C.チーム [redacted]	■実践型インターンシップ活用等に関し、認定NPO法人ETICの[redacted]氏と[redacted]氏と面談を実施。 ■実践型インターン事業の経営について株式会社御祓川の[redacted]氏と面談を実施。

【Unnan Community Campusの民営化検討】	■事業立ち上げについて、当法人副代表理事[REDACTED]と面談を実施。
--------------------------------	---------------------------------------

<主な成果>

(1) ぐるぐるもりもりチーム

チームで実現したい世界観を共有し、仲間を見つけるために12月2月に勉強会とワークショップ、3月にプランに関連する映画上映会を実施。今後も継続してイベント等を実施していく見込み。

(2) うなんん市民財団（仮）設立プロジェクトチーム

財団設立に向けて基本財産300万円の寄付キャンペーンを12月28日「はじまりのはじまりの会」から開始。キャンペーン最終日である2月29日目標金額に達成し、「一般財団法人うなんんコミュニティ財団」設立に向け手続きを進めている。

(3) コミュニティ通貨導入検討チーム

キャリア教育に関わるメンバー、高校生、地域課題にチャレンジする人材に伴走するメンバー、企業の地域課題解決に伴走するメンバーで構想を検討し、プロトタイプのコアとなるテーマを「高校生のチャレンジ促進」と定めた。アプリ開発担当者とも協議を重ねて、ActcoinというSDGs推進の仮想通貨を運営する会社との提携の方針を決めた。また、プロトタイプ開発のための助成金500万円を獲得。

(4) U.C.C.チーム

次年度運営資金のクラウドファンディングを2月より開始。

「一般社団法人コミュニティキャリアーズ」設立に向け手続きを進めている。

【実施内容・チャレンジャーズカフェ】

月	日	取り組み実施内容 (参加者相談内容等)	参加者 (スタッフ含まず)
6月	19日 (水)	・松江などを中心に開催しているものづくりWSの開催場所や参加者層の開拓について ([REDACTED])	6名 (うち市外からの参加3名)
7月	20日 (土)	・保育士としての今後と地域貢献の仕方について ([REDACTED])	2名 (うち市外からの参加1名)
8月	21日 (水)	・開催する防災啓発イベントの告知方法などについて ([REDACTED])	7名 (うち市外からの参加1名)
9月	21日 (土)	・幸雲南塾での活動について意見交換 ([REDACTED] さん)	3名 (うち市外からの参加2名)

<主な成果>

全4回実施した本企画にはのべ18名が参加（うち市外参加7名）し、それぞれの活動について共有・相談を行った。

- 6月参加者が三日市ラボにて工作WSを実施。出雲市から三日市ラボ初来訪者が参加。
- 8月は幸雲南塾OBの [REDACTED] 氏に料理提供を依頼。それを契機となりに市内でスパイスをつかった商品開発に取り組む [REDACTED] 氏と商品開発ミーティングを3回実施。 [REDACTED] 氏は今年度商品開発のための助成金を取得し、事業化に取り組む。
- 9月参加者のうち1名が、当企画での相談をきっかけにコミュニティ財団立ち上げに関し

てプロボノボランティアとして関わりを継続している。

4.2. 幸雲南塾アカデミーの企画・運営

起業や事業を興すまでではないが、地域を良くする取り組みを学びたい・参画したい、というニーズに対応するため、地域を知る・学ぶ「はじめの一步」の場として、講義形式で学び考える機会となる幸雲南塾アカデミーという勉強会を実施した。

<事業のねらい>

(1) ローカルチャレンジャーの活動の促進・拡大

(2) ローカルチャレンジャーの裾野の拡大

昨年度に引き続き、ローカルチャレンジャーの次の活動に繋げるための学びの場を設計した。

今年度は、幸雲南塾のテーマでもある「まちの可能性を開花させる」「子や孫に残す雲南を考える時間」と同義である、誰も取り残さない持続可能な開発目標であるSDGsをテーマとした。国連は持続可能で安定した社会をつくるため、地球に住む全ての人たちに具体的な行動を求めているが、すでに地域ではローカルチャレンジャーが安心安全な社会をつくっていかうと様々な取り組みがされている。一方で、その取り組みが地域で高い認知度でないこともある。社会の課題やそれに取り組むローカルチャレンジャーを知り、課題について考え、そして参加者自身も小さなことから実践するチャレンジャーになる、その一步を踏み出す機会として開催した。

幸雲南塾アカデミーは、より身近な市内チャレンジャーによる話題提供及びワークをする「楽しいまちづくりを考えてみる会」と、日本で先進的な活動をする市外チャレンジャーによる講演及びワークをする「幸雲南塾アカデミー」に分けて実施した。当日は、雲南や日本各地の現状や課題を共有する時間と、私たちが目指す雲南はどういうものか、そこに向かうためにはどう楽しく取り組むことができるか等を考え出し合うワークを実施し、具体的に個人及び話題提供者と繋がり次の一步をどう踏み出すかを考えた。

【実施内容・市内実践者】

月	日	取り組み実施内容	参加者 (うち新規)
4月	14日 (日)	雲南のチャレンジと木次乳業の歴史を味わう朝食会 話者：■■■■氏（雲南市役所政策企画課部長） 雲南が誇る先輩チャレンジャー、「戦後社会教育の開拓者」とたたえられた旧日登中学校校長の■■■■先生と、木次乳業創業者の■■■■さん。お二人のチャレンジの歴史を学ぶ。	16 (8)
7月	8日 (月)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.1 ～森林活用・食～ 話題提供者：■■■■氏（フリーランス木こり）、■■■■氏（Naofarm） 場所：アルメ	12 (4)
8月	8日 (木)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.2 ～繋がりづくり・就農～ 話題提供者：■■■■氏（NPO法人カタリバ）、■■■■氏（あごうや農園） 場所：おんせんキャンパス	12 (7)
9月	6日 (金)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.3 ～難病の方のサポート・男共同参画～ 話題提供者：■■■■氏、■■■■氏 場所：下熊谷交流センター	9 (4)

11月	2日(土)	「助けてあげる」から「一緒につくる」へ ～難民の友人とカラフルな未来をつくろう！～ 講師：[REDACTED]氏（NPO法人WELgee）、[REDACTED]氏 様々な事情により自らの国を追われ、日本にいられた方々を巡る現状を学び、ともに社会を創る友人たちについて知る機会とする。 場所：多文化カフェSoban	13 (1)
3	25日(水)	認定NPO法人カタリバから学ぶ！子どもの居場所と緊急時の支援 講師：[REDACTED]氏（認定NPO法人カタリバ） 子どもの居場所づくりと緊急時の支援について振り返り、今後を検討する。 場所：三日市ラボ（動画配信）	15

<成果>

(1) ローカルチャレンジャーの活動の促進・拡大

参加は、昨年度の145人より49人増え、延べ194名だった。また、参加者の中から次のような実践が生まれた。

- ・話題提供をしたローカルチャレンジャーが新たに勉強会を主催
- ・話題提供をしたローカルチャレンジャーと参加者が連携し、毎月活動を継続
- ・参加者（経営者）が自社で産前産後ケア研修導入
- ・今期塾生がアカデミーにて主催イベントの周知をきっかけに3名参加
- ・アカデミー参加者の呼びかけにより、事業者が来年度環境への取り組み（ゼロウェイスト認証等）を検討

(2) ローカルチャレンジャーの裾野の拡大

今年度、新規のアカデミー参加者は52名だった。参加者の参加きっかけの理由としては「食」や「親しんでいる場所」が要因として挙げられる。社会参画のきっかけが少ない人の生活の導線の中にこのような場を設けることがポイントであると考えられる。

4.3. スペシャルチャレンジ・ホープ事業における支援

昨年度より雲南市が開始した雲南スペシャルチャレンジ（以下スペチャレ）・ホープ事業は、雲南市の課題解決または価値創造に寄与する事業を起こす者を対象に、金融機関の融資と雲南市からの補助金の同額マッチング（上限100万円）および保証料・利子補給を行うものである。

おっちラボは事務局を務めるとともに、応募者に対し応募申請前のプロジェクトのブラッシュアップ支援、および採択者に対し地域課題解決に向けて開催した協働会議にかかわる支援を行った（協働会議支援に関しては後述）。

<採択者とプロジェクト内容>

以下の4者が採択された。

【前期募集】

- ・[REDACTED]氏（株式会社Community Care）：「痛みで生きがいをあきらめない生活」を目指し、リハビリ職が痛みを小さいうちに抑える生活・就業習慣を共に創る「暮らしのリハ室」

【後期募集】

- ・[REDACTED]氏（うんなんプロモーション）：人や本との出会いを創出するとともにチャレンジを実践でき、まちの人のキャリア支援の拠点となるブックカフェの設営
- ・[REDACTED]（合同会社EasyGoJapan）：全国でも稀な室内キャンプ場で

提供するオリジナルテント作成体験やアウトドア好きのコミュニティ形成を通して日本一魅力的な田舎をつくる

- 氏：市内小規模事業者向けの島根県特産品ECサイトの運営

なお、氏の所属する（株）Community Careは幸雲南塾5・7期生、氏は幸雲南塾3・4期生、氏は幸雲南塾スタート8期生である。

＜採択後における支援内容＞

採択者は、採択者の感じている地域課題の解決に向け、それに係る関係者を集め話し合う協働会議を開催した。協働会議では、関係者同士がそれぞれの活動内容そのものやその中で感じている問題意識を共有し合い、課題の解決のために共に考え合える場の創出を目指した。

前期採択者である氏は6月、12月の2回の協働会議を開催した。おっちラボは主に協働会議前に採択者と面談をして課題整理と会議企画の支援を行うとともに、開催時に運営支援を行った。他3氏は12月の採択後1～3回の協働会議ないし関係者による意見交換会を行った。

また、プロジェクトの収益面に関し、各氏は雲南市商工振興課主催、おっちラボも企画に参画した新事業創出セミナーにおいて、株式会社日本総合研究所（以下、日本総研）大森充氏からのアドバイスを受けた。

採択者	採択者の実践	おっちラボの支援内容
	■9月22日（日）第1回協働会議「みんなで考えよう腰痛・ひざ痛ワークショップ」を下熊谷交流センターにて開催。参加者は自主組織、医療関係者など22名（スタッフ含む） ■9月22日（日）日本総研氏と「暮らしのりハ室」×企業における可能性を協議。企業従業員を対象とした”痛み”にまつわるアンケートの調査項目なども相談。 ■12月12日（木）第2回協働会議「暮らしの中から解決 ひざ痛・腰痛」を阿用交流センターにて開催。参加者は阿用住民・地域自主組織スタッフ、他自主組織福祉推進員など47名（スタッフ含む） ■3月26日（木）第3回協働会議「暮らしの中から解決 ひざ痛・腰痛」開催を予定していたが、コロナウイルス感染拡大予防のため、開催中止。	開催に先立ち、開催目的の整理やゴールの設定、当日の内容などについて2度協議の場を持った。開催当日もファシリテーターなどスタッフとして運営に参画。 場の設定及び調整。 開催前に1度内容について協議。当日も運営スタッフとして参画。
	■12月11日（水）・2月18日（火）・3月17日（火） 新事業創出セミナー：日本総研氏と事業、組織内チームビルディング及びブックミーティング企画に関し、壁打ち。 ■3月18日（水）に第1回ブックミーティングを開催。	場の設定。 開催に先立ち、新事業創出セミナーの内容も踏まえ対象層である中高生に刺さるミーティングのあり方を協議、およびそれに向けたネ

		カスタクションの整理。 開催当日はおっちラボ スタッフが同席した。
	■12月11日（水）・1月21日（火）・ 2月18日（火）・3月17日（火） 新事業創出セミナー：日本総研■■■■氏と事 業（オーダーメイドできるテント開発、オ ンラインコミュニティ組成、スペチャレ事 業外ではあるが防災用オールインワンボッ クス）に関し、壁打ち。 ■2月14日（金）オンラインコミュニティ構 想について、■■■■氏と壁打ち。 ■2月17日（月）事業内容と体制の変更につ いて金融機関・市関係者へ報告・協議。 ■4月中 オンラインコミュニティについて の意見交換会開催予定。	場の設定。 場の設定及びフォロー。 企業内の役割および体制変 更等について、事前に■■■■ ■■■■と面談。
さんひょ ん氏	■12月18日（水）雲南市地域振興課 ■■■■ 氏と打ち合わせ ■12月21日（土）加茂交流センターと協議 ■2月14日（金）地域づくり担当者会議出席 ■3月24日（火）自主組織座談会 いずれも地域自主組織へのIT導入及び業務 効率化に向け、地域との対話を通し自身が 果たせる役割を模索した。	12月はいずれもおっちラボ スタッフが同席し、さん ひょん氏のフォローを行っ た。

<主な成果>

- ■■■■：提供するプログラム「暮らしのリハ室」は、6月に開催した協働会議に出席した地域自主組織を中心に、6組織において導入され、地域住民に対して暮らしの中から痛みを改善する取り組みが展開された。プログラムには大学研究者も参画しており、今後、プログラムの客観的な効果測定が期待される。また、市内の企業がプロジェクトに関心を持ち、従業員に対するアンケートを共催。ひざ痛・腰痛が原因で仕事に支障をきたしていることが明らかとなり、来年度以降、当該企業に対する暮らしのリハ室参入が前向きに検討されている。
- ■■■■：キャリアデザイン支援の拠点を学校外につくるということで、学校教育の現場との連携のため、教育支援コーディネーター・学校教師との連携体制づくりを進めた。また、コロナウィルスの影響により支援対象である中高生のヒアリング開催が難しくなったため、急遽知人大学生へのヒアリングに変更・実施。課題抽出をしつつ、支援の提供者として可能性も模索した。ブックカフェ事業は諸事情により事業転換が必要になったが、新たな方向性での支援体制構築のために、改めて関係者との協議を進めようとしている。
- ■■■■：コロナウィルスによる中国からのテント材料仕入れ遅延が生じたが、状況に応じた事業展開を試み、材料が到着し次第、クラウドファンディングサービスを通じて開発したテントの販売を開始できる体制を整えている。また、アウトドア好きによるコミュニティの立ち上げを準備中。
- ■■■■：市内事業者向けに、ICTセミナーを実施する方向で商工会や県の産業振興財団と調整を実施し、関係性を構築した。また、地域自主組織へのICT導入に向け、複数地域と意見交換を行ない、次年度以降の支援体制の素地を整えた。

4.4. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務

(1)ローカルベンチャー推進協議会の概要および目的

ローカルベンチャー推進協議会（以下「協議会」）は、2016年9月、地域の新たな経済を生み出すローカルベンチャーの輩出・育成を目指し、西粟倉村とNPO法人ETIC.の呼びかけに賛同した8つの自治体により、内閣府の地方創生推進交付金に「広域連携によるローカルベンチャー推進事業」として申請し、採択されたのをきっかけに発足した。自治体が拠出金を負担し、事務局をNPO法人ETIC.に委託して運営している。自治体同士や民間団体が連携し、全国からローカルベンチャーの担い手を呼び込み、事業成長を支援し、5年間で総額50.4億円のローカルベンチャーによる売上規模増、114件の起業家創出、269人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活動を開始した。

2017年、新たに雲南市を含む2自治体が、2018年には新たに1自治体が参画し、2020年度末までに60.1億円のローカルベンチャーによる売上規模増、176件の起業家創出、366人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活動している。

代表幹事：岡山県西粟倉村

副代表幹事：岩手県釜石市

参画自治体：北海道同厚真町、宮城県気仙沼市、同石巻市、石川県七尾市、島根県雲南市、徳島県上勝町、宮崎県日南市、熊本県南小国町

事務局：NPO法人ETIC.

(2)雲南市の加入経緯および目的

雲南市と当法人は、本事業（課題解決型人材育成事業）に関して、主に①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み（属人的でない繋がり）、②雲南市で起業する都市部人材の獲得、③コーディネーター力の養成の3点を課題として認識していた。雲南市と当法人は、NPO法人ETIC.の宮城治男代表理事より協議会への加入の打診を受けて検討し、加入することで上記課題の改善につながると判断し、当法人をローカル事務局とすることとして参加を決めた。

これを受けて、平成29年5月15日のローカルベンチャー推進協議会の総会において、雲南市の加入が承認された。

さらに平成30年度より、④地域内のローカルベンチャー機運の醸成も図って取り組んでいる。

(3) 令和元年度の協議会における協働内容

本年度は上記①～④のうち、①・②・④に関して事業を実施した。

①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み

日付	実施内容	成果
4月～ 3月	【専門人材の活用】 協議会界隈のネットワークで知りえた専門性の高い人材が、雲南市内においてその専門性と知見を活かしたサポートを実施した。	◎ETIC.の担当コーディネーターより社会的インパクト評価のリサーチに長けた〇〇〇氏の紹介を受け、上記財団設立プロセスの研究及び雲南市の基礎データの分析等を実施。 ◎本協議会パートナー自治体の下川町よりNPO法人森の生活・〇〇〇氏を幸雲南塾アカデミーの講師として招聘。 ◎元同町ローカルベンチャー事務局を務めた〇〇〇氏より(株)カヤックの〇〇〇氏の紹介を受け、幸雲南塾参加者のコミュニティ通貨の仕組みの

		助言を受けた。 ◎幹事自治体である七尾市の(株)御祓川・■■■■氏より、幸雲南塾参加者である実践型インターンチームへの助言を受けた。 ◎幹事自治体である上勝町の資源循環の取組みを推進してきたNPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー■■■■氏を招聘し、雲南における環境系市民活動促進の仕掛けを協議している。
11/7~8	【ローカルベンチャーサミット】 ①10自治体の首長による記者会見 ②10自治体と都市部の関心ある企業との意見交換の場としてのイベント。竹中工務店やヤマハ発動機も参画して進める「企業チャレンジ」など、雲南市の取組みを都市部の企業などに発信。また、協議会有志によるローカルベンチャーの資金調達に関する研究会の発表を実施。	◎雲南の取組みを発信することで、関心を持つ都市部企業が増え複数社から問い合わせあり（住友生命等）。また、メディアにも多数掲載。 ◎資金調達研究会に協力いただいた(一財)社会変革推進財団の■■■■氏が、次年度の本格調査にも協力いただくこととなった。

②雲南市で起業する都市部人材の獲得

日付	実施内容	成果
4月～3月	【企業チャレンジ】 ①本事業の開始にあたり、H31年4月11日に竹中工務店・ヤマハ発動機・ETIC.雲南市の4者で記者発表を行った。 ②「企業チャレンジ」プラットフォーム運営のため、ETIC.、竹中工務店、ヤマハ発動機、PwCコンサルティング、NTTドコモとの協議を昨年度より引き続き実施。 ③上記のなかでの具体的課題解決プロジェクトの設計のため、ヤマハ発動機、竹中工務店、ヒトカラムメディア、ITイノベーション、日本総研等と協議。 本年度は、上記を企業チャレンジ事務局が伴走し、当法人は、これらの企業との将来の連携のための協議に参加するにとどめた。	◎企業チャレンジ事務局である竹中工務店・■■■■氏との連携により、企業チャレンジや中高生のチャレンジをつなぐ「コミュニティ通貨」を雲南市において導入するプランニングを実施し、実証実験のための資金調達が可能となる見込み。 ◎ITイノベーションによる住民とのワークショップにおいて、若い女性の活躍する場作りについて活動の方向性が共有され、主体となる方の顔が見えてきた。 ◎（企業チャレンジの枠組み外）Life is Techを教育委員会に紹介し、同社の提供するプログラミングキャンプが、来年度以降中高生のスペシャルチャレンジの推奨コースとなる見込み。
6/1, 8/24, 12/14-15	【ローカルベンチャーラボ（開講式・中間合同ラボ・デモデイ）】 ①ローカルベンチャーラボ内に、当法人の理事■■■■をファシリテーター、副代表理事■■■■をメンターとする「ソーシャルビジネス」のラボを設置。	◎ソーシャルビジネス・ラボ参加者の作業療法士・■■■■氏が、石巻より奥出雲町に移住して雲南のコミュニティナースや訪問看護ステーション・コミケアと協働して挑戦することを決めた。また、同参加者で「おてつたび」を運営する■■■■氏を

	②デモデイにスペシャレ採択者の 氏を招待。	うなん暮らし推進課と接続し、継続協議している。 ◎氏のローカルベンチャーラボへの参加動機が高まり、現在参加を協議中。
2/29	【地域オモシロ大作戦】 ETIC.のプログラムに参加した約40名の起業家等と協議会の各自治体とのマッチングイベント。自治体が地域資源を持ち寄り、起業家がそれと各自の事業との掛け合わせを提案する機会(オンライン開催)	◎以下の5名の起業家（起業検討中も含む）が雲南省の地域資源（木材利用及びスパイス）に関心を持ち、現在現地訪問の調整が行われている状態。また、一部の方には雲南省を実験フィールドとしつつローカルベンチャーラボに参加することを勧めている。 ・氏：雲南省出身で京都の会社に勤務。理化学研究所と協力し、雲南省でのシロアリ養殖を検討中。 ・氏：全国レトルトカレー協会。雲南省の特産を使ったレトルトカレーを

③コーディネーター力の養成

日付	実施内容	成果
6月 ～ 11月	【資金調達研究会】 協議会有志にて月に1回オンラインで、ローカルベンチャーの資金調達に関するケースの共有やベンチャーキャピタルの方の話を聞く会を実施。ローカルベンチャーサミットで成果発表。	◎多様なローカルベンチャーのステージや業態に応じた資金調達手法があることが整理された。 ◎今後詳細の調査をするうえで協力してくれる人材とつながることができた。

④地域内のローカルベンチャー機運の醸成

日付	実施内容	成果
11/8	【ローカルベンチャーサミット】 サミット内公開イベント「新たな事業創出のための、自治体×企業連携のための作戦会議」にて雲南省から吉岡幸浩氏が話題提供者として参画。	◎氏はうまく自事業の価値を伝えることができなかったと反省していたが、後期スペシャレ・ホープに応募・採択される前段のタイミングにおいて、ビジネスプラン研鑽の大きな契機となった。

(3) 総括

前述のとおり、①雲南省のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み（属人的でない繋がり）、②雲南省で起業する都市部人材の獲得、③コーディネーター力の養成のおよび④地域内のローカルベンチャー機運の醸成の4点の課題に対して、本協議会との連携が進んだことにより改善が見られている。

①については、昨年度に引き続き、雲南省内のリソースだけでは解決できない塾生や市内団体の課題に対して、都市部や他地域の人材を繋げることで塾生や市内事業者のアクションが促進されてきている。

②については、雲南で起業する人材を確保できなかった（1名がある事業を小計して起業する目まで行ったが雲南側の事情で頓挫）ことが悔やまれる。

③については、資金調達の分野でリテラシーを上げることができた。

④については、今年度は地域の事業者や起業家を協議会のプログラムに接続することが十

分にできなかった。来年度以降、重点的に強化したい分野である。

4.5. 実践型インターンシップの活用

<事業のねらい>

- (1)（おっちラボに対して）地域内や県外の若者に関わってもらうことにより、おっちラボのプランや活動の進展を助ける。
- (2)（インターン生に対して）幸雲南塾生のプランニングや活動への関わりや地元の方々との交流を通して、地域課題解決や未来創造に向けた活動に取り組む主体性を引き出す。

【実施内容】

- (1) おっちラボの事業サポート
- (2) 地域住民や団体との交流・ヒアリング・イベント企画など
- (3) 各関係機関にヒアリング・会議への同席など

【参加人数】

長期受け入れ：1名参加（男性1名／11か月／県外出身者）

【主な成果】

インターンを通して、以下のような効果があった。

- (1) おっちラボと関係機関や地域自主組織等地域住民との関係性がより良好になった
とくに市民財団の設立にあたり、本人も自ら塾生として設立準備に参画し、立場はあくまでも財団準備委員の一員としてではあったが、積極的に地域に飛び出して関係構築に努めた。その結果、財団設立資金集めに大きく貢献したほか、インターン生を通じておっちラボや幸雲南塾の存在を知ったり、より関係の深まった市民や機関が多く現れた。
- (2) インターン生が様々な活動に取り組むにあたり、本人の主体性を引き出せた
インターン中、塾生や地域住民との関係構築を通して、地域で必要なことは何か、インターン期間中に自分でできることや挑戦したいことは何かを考えて実行していた（添付書類参照）。

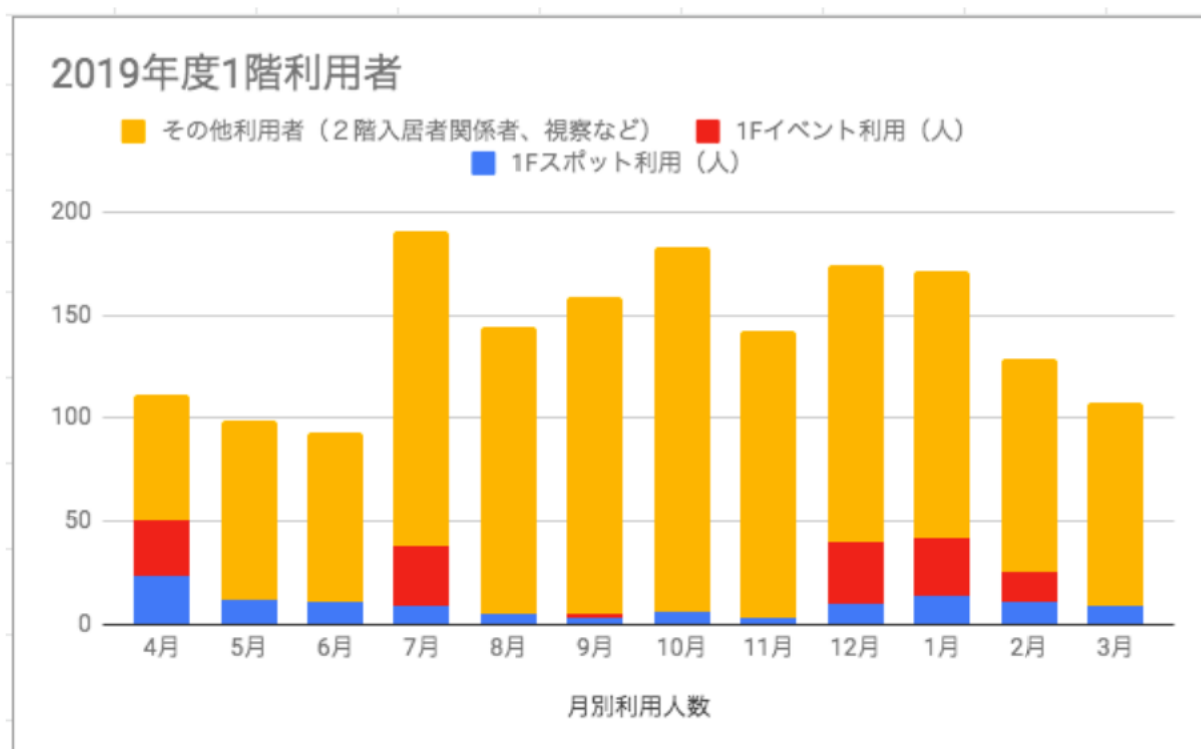
4.6. 三日市ラボの運営

<事業のねらい>

- (1) 働く場所の提供
- (2) 地域住民のアクションの増加

<実施内容>

- (1) コワーキングスペースの管理運営
利用者数（延）（H31年4月からR2年3月まで）
別紙参照



(2)シェアオフィスの管理運営

利用者について（H31年4月からR2年3月まで）

入居者	内容	本社	席数	期間
NPO法人カタリバ	キャリア教育、不登校支援	東京都	6席	12ヶ月
プランニングオフィス コダマ	調査研究	雲南市	1席	6ヶ月
そんさんひょん	起業型地域おこし協力隊	雲南市	1席	6ヶ月

(3)三日市ラボチャレンジショップ

出店者	内容
雲南	アクセサリー展示販売
雲南	革製品展示
雲南	市内産・加工のお茶（番茶・紅茶）販売
出雲	ポストカード、ステッカー展示販売
奥出雲	出雲民藝和紙アクセサリー展示販売
宮城	アクセサリー、ペンケース展示販売

【主な成果】

(1)働く場所の提供

三日市ラボの主な利用者は、雲南市内利用者では2階の入居者や入居関係者、雲南市外利用者では企業チャレンジ関係者であった。また、配偶者の里帰り出産で約一ヶ月間雲南市内に滞在するシステムエンジニアの方の2階テーブルの短期利用もあった。個人の延利用人数の

割合としては、雲南市26.8%、島根県（雲南市以外）20.8%、東京都28.3%と東京都からの利用者割合が高かった。

1階の利用は主に2階入居者関係者又は行政関連の視察等で全体の85%を占めている。一人で立ち寄り仕事をするコワーキング利用者は、前年度の67人から117人と増加しているが、今年度は会議利用も多く117人のうち45人は会議の同席者であるため、実人数は昨年度から11人増加し72名である。年1回のみ利用者は昨年度25人、今年度27名で、近年、年に25名程度は当施設に「ふらっと立ち寄る」状態となっている。

(2) 地域住民のアクションの増加

今年度は幸雲南塾塾生の勉強会やイベント利用が毎月あり、地元のチャレンジャーたちが次のアクションを考えるための拠点となっている。行政関係者では、第一層生活支援コーディネーターや企業チャレンジ等の関係者の会議利用も定期的にあった。また、2階入居者であるNPO法人カタリバの面談や会議で地元高校生が利用することも増えている。

(3) 緊急時の協働「雲南コミュニティラボ」

新型コロナウイルス感染対策による小中学校の休校時に2階入居者であるNPO法人カタリバ主催で、1階コワーキングスペースにて約2週間子どもの預かりを行った。三日市ラボ利用にあたってはうなん暮らし推進課に連絡、相談し当日おっちラボでも見守りを行うなどした。

4.7. コーディネーターの支援力向上

コーディネーターがそれぞれの得意分野を生かしたスキルアップのための研修会への参加を行った。

従前より、アドバイザーから、中間支援組織に必要な8つの機能の提示を受けていたことを受け、本年度も前年度に引き続き、とくに相談対応力とコーディネート・ネットワーキング力の向上を重点課題とした。

（参考）『中間支援組織が持つべき8つのチカラ』

1. 相談対応力
2. 調査・情報収集力
3. 編集・発信力
4. コーディネート・ネットワーキング力
5. 資源提供力
6. 内部の人材育成力
7. 政策提言力
8. 施設運営力

具体的には、ローカルベンチャー推進協議会で提供される研修のほか、下記の研修に取り組んだ。詳細は添付書類を参照。

(1) 2019年度中間支援組織・支援センター役職員向け合同研修会

開催：平成31年4月26～27日、岡山県総合福祉ボランティアNPO会館

(2) システム思考セミナー

開催：令和元年6月15～16日、TKP御茶ノ水カンファレンスセンター

(3) ローカルベンチャーラボ特別講義

開催：令和元年7月13日、ETIC.セミナールーム

(4) ファンドレイジングジャパン2019

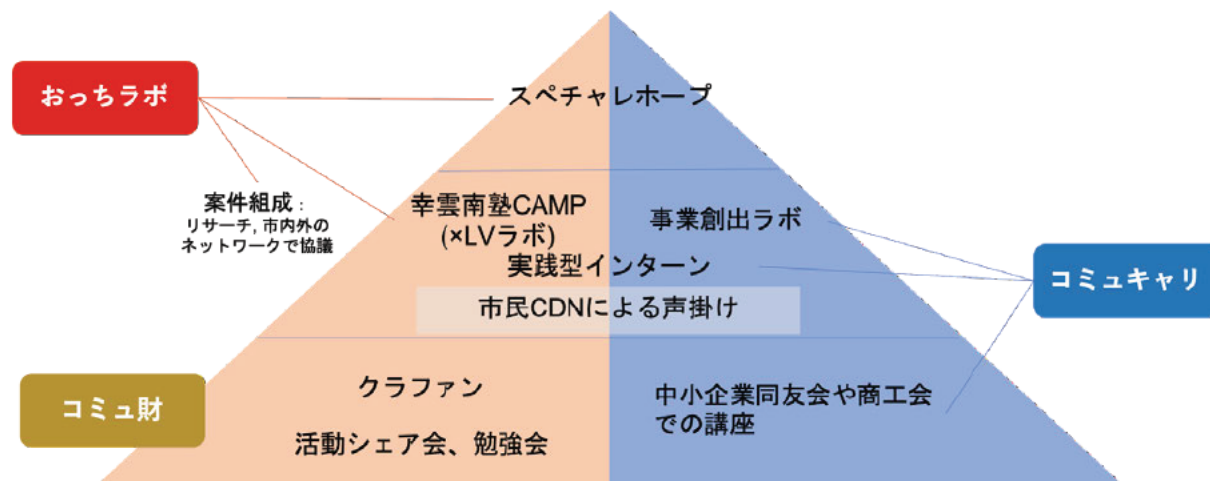
開催：令和元年9月14～15日、駒澤大学

- (5) SDG s 時代に複雑な社会問題に挑むためのパートナーシップ戦略講座 及び
ゼミ「問いかけ力を磨こう」
開催：令和元年11月23～24日・12月15日、エンパブリック根津スタジオ
- (6) 助成プログラム・オフィサーのための基礎研修
開催：令和2年1月10～11日、日本財団ビル
- (7) 大津市SG-Park視察
開催：令和2年2月21日

5. 今後の取り組み及び課題

今年度は、雲南の現状を踏まえ、小さなチャレンジを支え合う市民の繋がりはできてきているため、雲南の持続可能性に大きな影響を与えうる、雲南の可能性を現実にする仕組みづくりに注力する方針とした。その方針に基づき、幸雲南塾2019では、市民の寄付で市の困りごとを解決する市民財団、市民の助け合い（社会関係資本）をつなぐコミュニティ通貨、学生と地元企業双方のチャレンジを促す学生インターンシップの事業化、市民エネルギーを促進する取り組みの4つが本格的に始動した（2件が起業）。スペチャレ・ホープの伴走支援においても、地域にインパクトを及ぼすために、事業の受益者を含む関係者との会議（またはワークショップ）の場をもうけ、より本質的な変化をもたらせる取り組みを模索した。

次のステップとして、上記のような「地域貢献活動の事業化」に加えて、「既存事業者の地域貢献化」という軸も強化して、スペチャレ・ホープに挑戦する市民を増やしていく。そのため、ローカルベンチャーラボや新たに創設する事業創出セミナーと連携して、事業プランニングの質を高めることに注力する（下図参照）。ここにおいて、今まで以上に案件発掘・組成力が求められるため、市民財団、商工会その他の地域内の活動団体との情報共有と相互支援を強化していく。



令和２年度事業報告書

(令和２年４月１日から令和３年３月３１日まで)

特定非営利活動法人おっちラボ

１ 事業年度内の理事会・総会開催概要

①理事会

- ・令和３年３月２２日

開催場所：三日市ラボおよびオンライン会議システム

出席者数：理事３名（理事人数 ３名）

議決事項の概要：第８期事業報告および収支予算について
第９期事業計画及び予算案について
定時社員総会に付議すべき事項

②総会

- ・令和３年５月２４日

開催場所：三日市ラボ

出席者数：１０名（うち表決委任者４名）／正会員数 １０名

議決事項の概要：第８期事業報告及び決算について

２ 事業の概要および成果

別紙参照

3 事業の実施に関する事項

①特定非営利活動に係る事業

事業名	実施場所	事業実施の期間 (契約期間)	従事者数	受益 対象者数	事業費 (単位：円)
課題解決型 人材育成・ 確保事業	雲南 市内	H30.4.6～H31.3.31	4 名	6 0 名	経常収益 18,565,622 経常費用 ▲18,175,834 収支合計 <u>389,788</u>
木材利用推 進戦略策定 支援事業	雲南 市内	R2.9.25～R2.12.31	2 名	4 0 名	経常収益 1,100,000 経常費用 ▲ 1,101,810 収支合計 △ <u>1.810</u>

以上のほか、次の事業を実施した。

	視察事業	研修事業
経常収益	40,000	277,000
経常費用 (人件費除く)	▲0	▲0
収支合計	40,000	277,000

②その他事業

	商品販売事業	業務支援事業
経常収益	6,350	60,000
経常費用 (人件費除く)	0	0
収支合計	6,350	60,000

令和2年度課題解決型人材育成・確保事業 報告書

特定非営利活動法人おっちラボ

【目次】

1. 事業のねらい
2. 前年度までの実績
3. 事業実施体制
4. 事業実施内容とその成果
5. 地域の持続可能性を高める仕組みの検討

主な事業の成果

事業名	成果
幸雲南塾2020 (ローカルベンチャー ラボと共催)	参加者は雲南周辺地域（松江市・奥出雲町を含む）から 6名。うち3名が起業 （新事業立ち上げ含む）。 ほかローカルベンチャーラボに参加する全国からの参加者が9名。うち 2名が雲南と継続的な関わり を検討。
スペシャルチャレンジ・ホープ事業	過去 最多9件の応募 を受け、本採択（補助金支給）された 2件のいずれも事業化 を実現。 ほか7件は「育成枠」として伴走し、うち 3組が来年度の再応募を予定 している。
ローカルベンチャー 協議会	協議会や同プログラムを通じた雲南エリアでのチャレンジ6件（※）、調整中案件6件（※）、研究プロジェクト3件。

1. 事業のねらい

雲南市は、平成27年度から平成36年度（当時）までの10年間のまちづくりの目標と方向性を示す「第2次雲南市総合計画」及びこれを基に策定した「まち・ひと・しごと創生 雲南市総合戦略」において、若者や地域自主組織等による地域課題解決に向けた取り組みを促進し、多様な人材や団体等が課題解決にチャレンジする総働のまちづくりを推進することとしている。子どもから若者、シニア世代まであらゆる世代を通してチャレンジに優しいまちを目指している。

雲南市をはじめ多くの地方で、課題解決や仕事の創生等による持続可能な地域づくりの推進や定住対策などの重要性が高まっている。その中でも、20～30代の若者世代は地方創生の即戦力として活躍が期待されている一方、就学や就職で市外へ流出する割合も高くなっている。若者世代にとって魅力的なまちづくりに取り組み、雲南市で課題解決にチャレンジしたいと思う若者を増やしていくことが重要である。

地域づくりや地域の課題解決を、実践を通して学ぶ幸雲南塾は、県内でも先進的な取り組みとして、2011年に第1期がスタートして以降、昨年度までに延べ166名の卒業生（ラボアカデミー修了者を含む）を輩出してきた。今年度も、幸雲南塾を開講して引き続き地域課題

にチャレンジする若者を発掘・育成した。地域内外の取り組みが混ざり合うことを目指し、全国的な育成の場であるローカルベンチャーラボとの共催とした。

さらに、ローカルベンチャー協議会の雲南市におけるローカル事務局機能を担い、雲南市におけるベンチャー育成の土壌づくりや、都市部の起業家人材と雲南市の地域課題とのマッチングを図った。

なお、幅広く市民がまちづくりに参画する機会として、昨年度の幸雲南塾から他立ち上がった「うんなんコミュニティ財団」にその役割を移譲することとし、その機会提供を担っていた幸雲南塾アカデミーを開催しないこととした。

また雲南市が平成30年度から開始したスペシャルチャレンジ制度のうち、ホープ事業の事務局として、事業化や新規事業開発を目指す同制度採択者を対象として、金融機関やアドバイザーとともに伴走を行った。

2. 前年度までの主な実績

平成23（2011）年度	雲南市が主催する次世代育成事業『幸雲南塾～地域プロデューサー養成講座～』として開講。社会起業や地域貢献を志す若者の企画立案と実践をサポート。第1期（13名卒業）
平成24（2012）年度	第2期（11名卒業）
平成25（2013）年度	第3期（11名卒業） 塾の卒業生による任意団体「おっちラボ」設立
平成26（2014）年度	第4期（25名卒業）、NPO法人おっちラボ設立
平成27（2015）年度	第5期 幸雲南塾（4組6名卒業）、ラボアカデミー（9名修了）
平成28（2016）年度	第6期（2016年5月～2017年2月） 幸雲南塾（3組6名卒業）ラボアカデミー（14名修了）
平成29（2017）年度	第7期（2017年6月～2018年1月） 幸雲南塾（11組：4法人及び11名卒業）
平成30（2018）年度	第8期（2018年6月～2019年1月） 幸雲南塾START（6組7名修了）
平成31・令和元（2019）年度	第9期（2019年7月～2020年1月） 幸雲南塾（4組34名）

平成23年度に市が次世代育成事業として始めた『幸雲南塾～地域プロデューサー養成講座～』は、今年度で10期目を迎える。平成25年に塾の卒業生たちが塾生を相互支援する仲間のネットワーク強化のため立ち上げた任意団体「おっちラボ」は、平成26年にNPO法人化し、同年より幸雲南塾の事務局を担っている。

<卒業生の活躍>

2019年度末時点でのべ147名（ラボアカデミー修了者を含む）及び4法人の卒業生を輩出した。卒業生たちは、幸雲南塾のプレセミナーで事例発表を行ったり、県外からの視察があった際に活動報告を行ったり、現役塾生の相談に乗ったりと、幸雲南塾のサポーターとして幅広く活躍している。

また、卒業生同士のネットワークによって自分たちの活動の課題解決を行うなど、相互に支援し合う関係性も継続している。さらに、主に7期生を中心としたメンバーによる「地域おせっかい会議」が発足して世代も超えた市民のつながりのハブとなっており、2019年に卒業したうんなんコミュニティ財団は雲南市民の活動と資金とを繋ぐ役割を果たし、Community Careersは実践型インターンを仲介する団体としてまちづくりに必要な仕組みとなっている。幸雲南塾の卒業生が自らあらたなチャレンジのプラットフォームとなっている。

＜プログラムのリニューアル＞

第4期までの幸雲南塾は、一本のプログラムで実施してきたが、参加者のニーズが幅広いことから、2015年からは、伴走型人材育成プログラム『幸雲南塾』と地域づくりのはじめの一步を踏み出す定例勉強会『アカデミー』といった複数のプログラムを実施するスタイルとなった。

昨年度は個々のチャレンジがより促進される「仕組み」をつくることに注力できるようプログラムを再構築し、事務局は仕組みづくりにチャレンジするチームが効果的に活動を進めるためのサポーターという立ち位置から支援をおこなった。

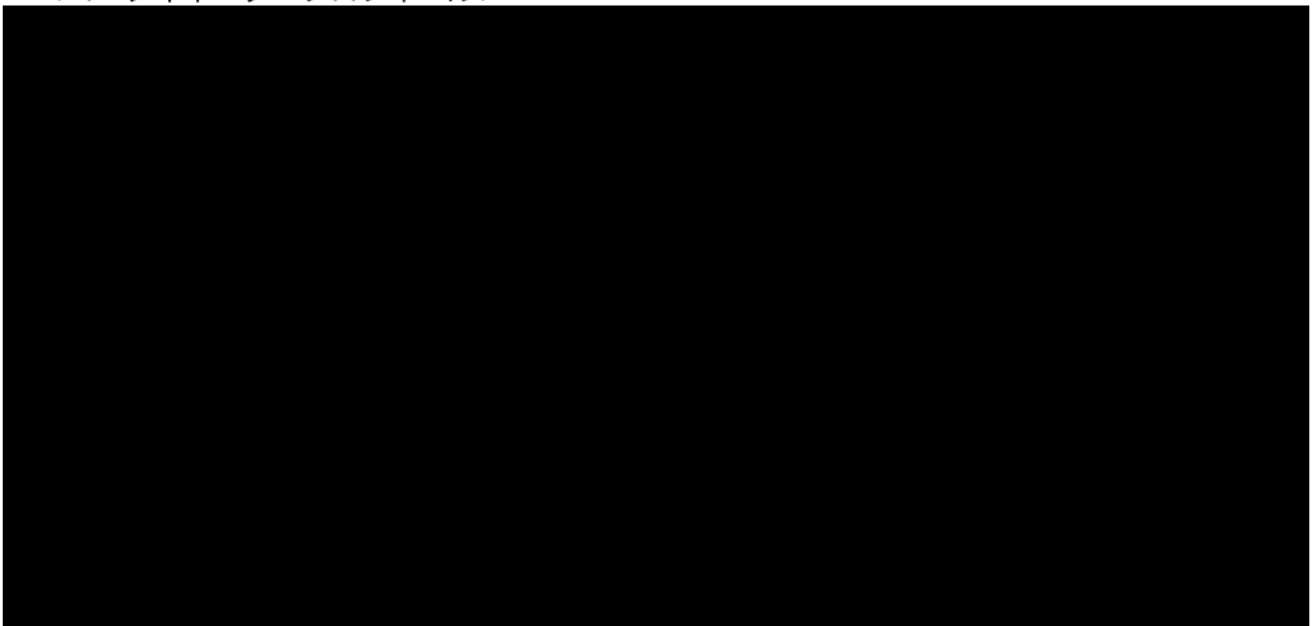
今年度は、NPO法人ETICが事務局をするローカルベンチャー協議会と連携し、都市部人材とともにプランを磨きあげる機会を創出し、チャレンジャーがより広い視野で、幅広い人材と出会い関わる機会を作ることを実施した。

3. 事業実施体制

(1)コーディネーター

一昨年度より、市民への若者のチャレンジに対する理解を促し、それまでの経験で培われた多様なスキルを活かし、活動するコーディネーターを配置した。本年度もこの体制を継続し、ファンドレイジング・マネタイズ・組織基盤構築・組織運営などを手がける人材を誘致し配置することで若者チャレンジを支援する中間支援組織としてのサポート力を強化した。また、若者チャレンジ支援コーディネーターに加え、ファンドレイジング・マネタイズなどのノウハウは外部アドバイザーとの連携により、充実した体制を整備した。

＜コーディネータープロフィール＞



(2)外部アドバイザー

＜外部アドバイザープロフィール＞

a. ファンドレイジング（資金調達）、組織マネジメント等のアドバイザー



雲南市との関わり	地域づくり勉強会「地域型ファンドレイジングを学ぶ会」（2014年）、幸雲南塾第4期最終報告会審査員・ワールドカフェファシリテーター（2014年）、2015年1月～2015年3月「社会起業のためのマネジメントスクール」講師。当NPOのファンドレイジング、組織運営マネジメント、ボランティアマネジメントなどに対するアドバイス専門官として理事も務める。平成27年度より雲南市地方創生総合戦略推進アドバイザーに就任。
移転するノウハウ	ファンドレイジング（資金調達）、運営マネジメント、事業計画立案、組織基盤強化に関するノウハウ

b. マネタイズ（収益事業化）のアドバイザー

雲南市との関わり	幸雲南塾4期（2014年）第2回講師。中山間支援人材育成事業（2014年）講師。塾卒業生とも良好な関係性が構築されており、マネタイズのノウハウを移転するに際し、最適なアドバイザーとして推薦した。
移転するノウハウ	地域資源の活用、コミュニティビジネスの立ち上げ、マネタイズ（収益事業化）に関するノウハウ

4. 事業実施内容とその成果

令和2年度は、以下の事業を実施した。※各項目について報告書末に書類を添付

- 4.1. 人材育成プログラム（幸雲南塾2020）の企画運営
- 4.2. スペシャルチャレンジ・ホープの伴走支援
- 4.3. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務
- 4.4. 情報発信人材育成
- 4.5 その他課題解決人材育成に関する取り組み
- 4.6 コーディネーターの支援力向上

4.1. 人材育成プログラム（幸雲南塾2020）の企画・運営

「幸雲南塾2020」は、伴走型人材育成プログラムとして開催した。今年度の特徴は、ローカルベンチャー協議会の主催するローカルベンチャーラボとの共催（同プログラム内の研究プロジェクト）の形を取り、地域外のチャレンジャーからの学びを目指したことである。

当初、上記研究プロジェクトの内容を、＜半年間のプログラムの中で雲南でのフィールドワークを2回開催し、各地からの参加者にも雲南で地域課題解決のための実践をしてもらう＞ことを想定していた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴いローカルベンチャーラボ自体が全面オンライン化され、雲南へのフィールドワークも控えるべき事態となった。そこで、雲南でのフィールドワークは取りやめ、全4回のオンラインワークショップを実施することとした。

「生態系でインパクトを創出する」（＝仲間を作ってまちに変化をもたらす）というテーマで参加者を募り、雲南周辺からの参加者である6名に加え、都市部を含む他の地域より9名の参加者を得た。

<事業のねらい>

- (1) 社会起業家や地域貢献を志す若い人材の発掘及び育成（地域外の人材からの学びをもとに）
- (2) 若い人材の育成による地域課題の継続的な解決

<塾生> 雲南周辺在住者（雲南市・松江市・奥出雲町）：6名
地域外参加者（東京、釜石、石巻、塩尻、久万高原等）：9名

【実施内容・幸雲南塾2020×ローカルベンチャーラボ研究プロジェクト】

月	日	取り組み実施内容
6月	14日 (日)	9時～12時半 ※オンライン飲み会：19時～21時（オプション） 概要： ・参加者自己紹介（各5分：事前課題のドリームチームをもとにピッチ） ・生態系で取り組む事例紹介「おせっかい会議」 ■■■■さん（株式会社 Community Care 代表取締役） ■■■■さん（光プロジェクト株式会社 代表取締役） ◎事前課題：ドリームチームを描いてみよう！
8月	22日 (土)	13時～16時 概要： ・仲間づくりの事例紹介 ■■■■さんの講義：Seventh Generation Projectでの“仲間づくり” ・ラボ生代表者と■■■■さんとの壁打ち（2人） ・ラボ生を4人グループに分けて相互壁打ち会（15分×4人） ・懇親会
10月	10日 (土)	13:00-17:00 概要：「仲間を作る感覚をつくる」 (1) 一般社団法人 つむぎや ■■■■さんのお話 日本中を旅して、地域で出会った人たちの想いに“相乗り”してプロジェクトを立ち上げてきた■■■■さんの話から「一緒にプロジェクトを始める」ときに起こっていることを探ります。 ■■■■さんの記事： (2) “相乗り”を体感してみるワーク (3) オンラインイベントを企画してみる ※(4) オプション 懇親会！（18時～20時）

10月	11日 (日)	9:00-12:00 概要：「生態系をつくってみる！」 (1) うんなんコミュニティ財団 村上さんより 「雲南における社会的孤立の現状」を共有 (2) 社会的孤立を防止・改善する生態系をみんなで考えてみる
11月下旬～		幸雲南塾2020最終報告会に向けた発表練習
2020年 12月	5日 (土)	幸雲南塾2020最終報告会 雲南周辺在住者6名+雲南でプロジェクト実行する2名が5分発表 それ以外の5名が2分の発表

幸雲南塾2020 発表者一覧(5分発表)

氏名	発表テーマ概要	取り組み状況	居住地
	クリエイティビティ× 社会課題	市内の社会的活動をデザインの方 で支援。市民が創造性を発揮でき る場作りを構想中	雲南市
	梅(放置果樹)× (地域の)御縁	高齢者宅の放置果樹を加工する活 動を通じて高齢者と地域との交わり を創出中	松江市
	農業× リハビリ(アグリハ)	奥出雲町の地域おこし協力隊とし て農業を通じた健康づくりをする チームを形成	奥出雲町
	海潮暮らし× 自分らしい生き方	海潮地区の魅力発信と、遊休地に 魅力ある拠点の建設をしてブラン ディングをする準備中	雲南市
	「地域×企業」のマッチングアプリ	企業と地方自治体の効果的マッ チングの仕組みを構想し、	雲南市 →東京出向中
	山林×遊び	山林に関わる人を増やすため草刈 りチームを結成しつつ、山遊びの ワークショップを多数展開	雲南市
	地域×森林	地域の森林の魅力を都市に住みな がらも享受できるアプリを開発中	東京都
	「あなた自身×地域の自然 歴史 人」	都市に住む社会人が地域を旅して 癒しを得るワーケーションツアーを 企画	愛知県 刈谷市

幸雲南塾2020 発表者一覧(2分発表)

氏名	取り組み状況	居住地
	動物愛護を身近に実践するための商品の構想	岩手県花巻市
	愛知県内の若手起業家育成プログラム開発中	愛知県名古屋市中
	高齢になっても活躍できる役割づくりを実践中	北海道士幌町
	働きたいが、年齢、病気、国籍が理由で働けない人が活躍できる複合拠点を構想中	静岡県
	複業・2拠点居住・地域コミュニティ体験を通じた「仮想塩尻市民」計画を実践中	長野県塩尻市

<受講生に対する個別支援内容>

受講生	支援内容	成果
	- 気仙沼市で地域のデザイナーをしているローカルベンチャーラボ生と「地域×デザイン」について意見交換の場 - 地域内交通に関するチラシ制作の要望をもっていた地域自主組織を紹介。	デザイナー業務が市内／県外ともに順調に顧客を伸ばしている。
	アドバイザー友廣氏との壁打ち	放置果樹バンクから酒造との協働でゆず酒が誕生。 また船木氏との協働で放置果樹収穫のチーム組成。
	地域おせっかい会議との接続	アグリハはチームに委ね、自身は新規事業開発へ。
	事業創出ラボSHIFTとの接続	田舎を楽しむための古民家リノベという社内ブランド立ち上げへ。
	企業チャレンジ事務局からのヒアリングを提案	アプリ開発は断念したものの、企業と自治体とのマッチングの課題を明確化。
	- 西粟倉村の株式会社百森仲井氏との協議の場を設定 - 森林空間でのエンタテインメントスポーツ化の協議	荒れ地・山林に興味を持つ市民を増やしていくWoodshipを起業

● 〇氏が雲南市民谷地区で開催した「TataLabo」に参加しフィードバック ● 雲南市の森林データ活用アドバイザーとなる機会提供のため、林業畜産課〇氏、竹中工務店〇氏との協議の場を設定	雲南市のGISに関するセミナーの講師を務めるなど、雲南市の林業に関わる可能性が高い。
● 雲南でのツアー実施検討のため Community Careers〇氏や雲南市の名所案内	ー（まずは他地域でトライアル実施）

4.2. スペシャルチャレンジ・ホープ事業における支援

平成30年度より雲南市が開始した雲南スペシャルチャレンジ（以下スペチャレ）・ホープ事業は、雲南市の課題解決または価値創造に寄与する事業を起こす者を対象に、金融機関の融資や寄付、出資と雲南市からの補助金の同額マッチング（上限200万円）および保証料・利子補給を行うものである。

おっちラボは事務局を務めるとともに、**応募者に対し応募申請前のプロジェクトのブラッシュアップ支援、および採択者に対しアドバイザー等による伴走支援**を行った。

＜採択者とプロジェクト内容＞

採択者および、構想内容と今期の到達点は以下のとおり。

なお、応募はしたものの、補助金を有効活用する計画の詰めが足りない応募者については、来期のスペチャレに挑戦してもらうことを視野に、「**育成枠**」という位置づけとした。

スペチャレ採択者一覧（R2）

採択者（敬称略）	構想内容	到達点（R3.3）
本採択	イノシシの加工場を建設し、他地域にソーセージなどを販売	12月より加工場が稼働開始し、市内や都市部へのEC販売も好調。
	モンテッソーリ教育を基礎に、雲南地域の児童に地域ぐるみの保育を提供	室山農園にて拠点の整備が済み、寄付で300万円調達。3/27開所式。
育成枠	産前産後ケアのサービス提供	Webコンテンツの発信をしつつ、ママコミュニティづくりを軸に休眠預金申請へ
	軽トラを活用したサービスと遊休自動車のサブスクリプション	サブスクの試行が済み、軽トラのシェアに向けたサービス開発中。来期申請予定
	マイクロ水力発電など市民発電事業	先進地の起業家、アマタ、リコーなどとも意見交換。同じ関心の仲間と協議開始
	市内のよい商品を域外へ売る商社商社	来期ふるさと納税の運営を受託するとともに地域商社の事業化へ。来期申請予定
	タブレットで市内商店の商品をカタログ化して顧客に見せる移動式商店街構想	買い物代行の構想に向きたいが人員が限られるため、人材活用スキームを検討
	障がいや高齢で体が不自由な方々の移動支援	固定利用含めユーザーが順調に増加。一時退院支援＋見守りで来期申請予定
	鍋山住民を対象とした福祉タクシー	他の補助金を使い、地域内交通と温泉利用を含む高齢者の生活支援事業の準備中。

＜採択後における支援内容＞

採択者には、全員に対して3回程度、アドバイザー〇氏、〇氏や共創会議副委員長のETIC.代表〇氏との事業構想の機会を設けたほか、以下の支援を行った。

採択者	おっちラボの支援内容	採択者の実践
氏 (本採択)	- 融資獲得のため金融機関、商工会の経営指導員等と面談 - RaM 氏に年度を通じて伴走と販路開拓支援していただくよう依頼し、成果目標を設定。氏プロフィール： - ローカルベンチャーサミットにおいて石巻のジビエ起業家とともに登壇し、参加者からアイディアをもらう機会を設定 - イノシシ捕獲の多い阿用地区振興協議会の職員に 氏の取り組みを紹介	➤ 約1000万円の融資獲得 ➤ 加工場建設・12月竣工 ➤ ECサイト開設 ➤ パッケージデザイン実施 ➤ 直販及びEC販売開始（約200万円の売上） ➤ 東京での販路開拓 ➤ パートタイム1名雇用
Community Nurse Company (本採択)	- 寄付による資金調達につきうなんコミュニティ財団と調整 - アドバイザー 氏の旅費等支給 氏プロフィール - 同 氏の旅費等支給 氏プロフィール	➤ 幼児預かりの試行 ➤ 室山農園の経営陣や周辺住民との共通理解のための対話 ➤ 室山農園の古民家を改修 ➤ 300万円以上の寄付獲得（うなんコミュニティ財団を活用） ➤ インターン生だった学生2名がモンテッソーリ教育の研修機関に合格（R3.4月入学） ➤ 3月27日オープン
氏 (育成枠)	- 情報発信の専門家である 氏に短期伴走を依頼。 - Work Design Lab 氏と接続し5名のプロボノチームによる支援につなげる。 - うなんコミュニティ財団からの休眠預金獲得を提案	➤ ブログ記事の内容を改善し閲覧者増加 ➤ マーケティング戦略を一新し ➤ ママコミュニティづくりという新しい基軸に
氏 (育成枠)	- ローカルベンチャーサミットにおいてプレゼンし全国の参加者からアイディアをもらう機会を設定。 - 事業創出ラボSHIFTのモビリティ分科会、アウトドア分科会への接続。	➤ 商工会の支援で「幡屋便利軒」を独立開業 ➤ 数名のモニターに対して遊休車両のサブスクリプションの試行。レンタカー業の免許との棲み分けを検討中。 ➤ 軽トラにキャンプキットを載せてシェアするサービスを準備中
氏 (育成枠)	- 市民発電の先進地・石徹白の 氏と接続し小水力発電のヒアリング実施 - うなんコミュニティ財団主催のプラン発表イベントに接続し、市民から意見をいただく機会とした - アマタホールディングス 社長との意見交換を設定	➤ 小水力発電候補地を探索 ➤ 風力発電やバイオマス発電についても情報収集 ➤ 市民エネルギーに関心のある人たちとSNS上のグループ内で意見交換 ➤ 新電力会社について検討開始

	● リコーの環境部門との意見交換を設定 ● 陸前高田市で新電力会社を手掛けた■■■■氏と意見交換	
パティフ プラス (育成枠)	● (株)ワールドワン■■■■氏との意見交換の場で、パティフ経営陣に助言 ● 西栗倉村でふるさと納税の運営をしているエーゼロ(株)の担当者を紹介	➢ 雲南市にふるさと納税業務のプロポーザル
■■■■氏 (育成枠)	● 岡山NPOセンター■■■■氏からの助言の場を設定 ● 事業創出ラボSHIFTのモビリティ分科会に招待 ● 休眠預金の助成金活用を提案し、事業組み立ての協議	➢ 吉田町で住民（顧客）からヒアリングを実施 ➢ 大東町のスーパーと共同した移動販売を検討
■■■■氏 (育成枠)	● 鍋山の地域自主組織と接続し協働の可能性検討の場を設定 ● (株)HAREの■■■■氏からの助言の場を設定。	➢ 障害児の通学支援など安定収入とともに個別の依頼も多数 ➢ 鍋山のサロンで福祉車両のお披露目 ➢ 来期スペチャレ申請に向けて計画準備中
躍動鍋山 (育成枠)	● かごや■■■■氏と接続し協働の可能性検討の場を設定 ● 地域内交通の広報戦略のため幸雲南塾生の■■■■氏を紹介	➢ かごや■■■■氏を地域のサロンに招き福祉タクシーの存在を周知 ➢ 温泉施設を含めた地域内の安心・健康増進策を他の補助金などを活用してR3に実行 ➢ ■■■■氏の協力で広告物制作

<主な成果>

- 本採択の2事業者において新規事業がスタート
- 育成枠より3事業者が来期のスペチャレ補助金に応募意向

<関連資料一覧>

4.3. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務

(1)ローカルベンチャー推進協議会の概要および目的

ローカルベンチャー推進協議会（以下「協議会」）は、2016年9月、地域の新たな経済を生み出すローカルベンチャーの輩出・育成を目指し、西栗倉村とNPO法人ETIC.の呼びかけに賛同した8つの自治体により、内閣府の地方創生推進交付金に「広域連携によるローカルベンチャー推進事業」として申請し、採択されたのをきっかけに発足した。自治体が拠出金を負担し、事務局をNPO法人ETIC.に委託して運営している。自治体同士や民間団体が連携し、全国からローカルベンチャーの担い手と呼び込み、事業成長を支援し、5年間で総額50.4億円のローカルベンチャーによる売上規模増、114件の起業家創出、269人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活動を開始した。

2017年、新たに雲南市を含む2自治体が、2018年には新たに1自治体が参画し、2020年度末までに60.1億円のローカルベンチャーによる売上規模増、176件の起業家創出、366人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活動している。

代表幹事：岡山県西栗倉村

副代表幹事：岩手県釜石市

参画自治体：北海道同厚真町、宮城県気仙沼市、同石巻市、石川県七尾市、島根県雲南市、徳島県上勝町、宮崎県日南市、熊本県南小国町

事務局：NPO法人ETIC.

(2)雲南市の加入経緯および目的

雲南市と当法人は、本事業（課題解決型人材育成事業）に関して、主に①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み（属人的でない繋がり）、②雲南市で起業する都市部人材の獲得、③コーディネーター力の養成の3点を課題として認識していた。雲南市と当法人は、NPO法人ETIC.の代表理事より協議会への加入の打診を受けて検討し、加入することで上記課題の改善につながると判断し、当法人をローカル事務局とすることとして参加を決めた。

これを受けて、平成29年5月15日のローカルベンチャー推進協議会の総会において、雲南市の加入が承認された。

さらに平成30年度より、④地域内のローカルベンチャー機運の醸成も図って取り組んでいる。

(3) 令和2年度の協議会における協働内容

本年度は上記①～④のうち、①・②・③に関して事業を実施した。

①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み

日付	実施内容	成果
5月～12月	【ローカルベンチャーラボの活用】(1) 雲南起業家の推薦 協議会が起業家育成プログラム「ローカルベンチャーラボ」（以下「LVラボ」）を6月～12月（デモデイは3月）で開催し、そこに地域推薦枠として5名の起業家を推薦した（推薦枠は受講料15万円OFF）。 (2) 研究プロジェクトの企画運営 LVラボ内に「ソーシャルビジネス研究プロジェクト」を立ち上げ、雲南周辺地域で活動する6名のメンバーに加え、他地域から9名の参加者を得た。研究プロジェクトの内容および参加者の詳細は4.1に記載したとおり。	◎各分野の第一人者の事業家から本気のアドバイスを受ける機会。 例えば、工務店の新規事業を検討していた参加者がエリアブランディングの研究プロジェクトに参加し、第一人者である氏や氏などから助言を受けた。 ◎雲南地域から参加した6名が、全国から参加した起業家（研究プロジェクト外の者も含む）と助言・応援し合える関係性を築いた。 例えば、林業に関わる雲南の起業家は、開催期間中に林業や山に関係する起業家数人とともに独自のディスカッショングループをつくり意見交換を継続している。また、放置果樹からプロダクトを生み出す起業家は、都心に拠点を構える起業家と連携して都市部でのプロダクト販売を企画している。 ◎上記6名のうち2名が3月のデモデイにて代表者としてプレゼンを実施。
4月～2月	【ローカルベンチャーラボアドバンスの活用】	◎雲南から(株)Community Care / Community Nurse Company(株)の

	ローカルベンチャーの資本経営戦略について、投資家等の専門家から学び各自の戦略をブラッシュアップするゼミ	■氏が参加して、専門家によるブラッシュアップを得た。
10/27 ~31	【ローカルベンチャーサミット】 ①10自治体の首長による記者会見 ②ローカルベンチャーがショートプレゼンをして参加者からアイデアをもらうイベントのプレゼンターとして雲南の事業家2名を推薦。 ③上記のほか、雲南から提供するセッション内容の企画。	◎左記②の事業家2名（イノシシ肉加工販売、軽トラックのシェアサービス）が、 全国の参加者からお題に対してアイデアをもらった。 イノシシ肉加工販売の起業家は、石巻市のジビエ起業家との共同プレゼンをし、同種事業家どうしの意見交換の機会となった。

②雲南市で起業する都市部人材の獲得

日付	実施内容	成果
5月～ 12月	【ローカルベンチャーラボ（特別講義・研究プロジェクト・メンタリンググループ）】 ①LVラボの特別講義にて、当法人顧問の■を講師、■がナビゲーターとして講義を提供。 ②研究プロジェクトにて雲南の取り組みを全国の起業家に講義 ③メンタリンググループにて全国の起業家との関係構築	◎LVラボ参加者の東京在住の起業家（GISソフトウェアの企業に勤務）が、雲南の林業系起業家に共感し、 雲南でも活動開始（ワークショップ実施） 。また、今後市の林業関係の事業への関与も予定している。 ◎その他、LVラボをきっかけに雲南訪問をした者は4名。雲南独自のプログラムに参加した者は2名。
7/31, 8/17, 10/7等	【自治体と企業のMeetup】 地方自治体と組んでサービスを展開したいと考える企業との対話の場。3回に参加して、以下の6社と意見交換の機会を持った。 ・(株)chaintope ・(株)eumo ・(株)フェリシモ ・(株)Sansan ・(一社)Code for Japan ・(株)ANA HD	◎フェリシモ■氏が雲南訪問。 ◎Code for Japan関氏と「DIY都市」について雲南市関係者と意見交換を実施。

③コーディネーター力の育成

日付	実施内容	成果
9/24 ～ 12/7	【プロジェクト創発会議】 全国から新規立ち上げ準備中のプロジェクトを選抜し、メンターからの助言（仮想経営会議）または参加者どうしでのディスカッションをする機会。雲南からは林業系の人材育成枠組み検討テーマで参加。	◎雲南の林業や山林活用分野における支援のあり方について多角的な助言を受けた。主な助言者は、竹中工務店・■氏、久万造林・■氏、ヒトカラメディア■氏、(株)森未来・■氏、およびETIC. ■氏・■氏。
2/25	【まちの人事部構想】 雲南のチャレンジを加速するうえで人材	◎来年度、Community Careers■氏とともに まちの人事部の試行 をする計画

がボトルネックになっていることが見えてきたため、雲南市アドバイザー■■■■氏、一般社団法人Community Careers■■■■氏、一般社団法人Work Design Lab■■■■氏、NPO法人ETIC.■■■■氏などとともに「まちの人事部構想」について協議。	中。Work Design LabやETIC.と共同して雲南の関係人口リストを整え、人材ニーズのある企業との出会いの場を企画することから開始することを想定。
---	--

④地域内ローカルベンチャー機運の醸成

日付	実施内容	成果
12月～3月	【地元事業者を含むコミュニティ】 雲南において地域課題を解決していくビジネスモデル創出の可能性を高めるため、これまでの幸雲南塾卒業生や新規事業創出を目指す地元の事業者が切磋琢磨しながら事業構想を磨き合うコミュニティづくりに取り組み、関係者間協議を重ねた。	◎経済同友会雲南市部長の■■■■氏や商工会青年部長の■■■■氏も、共同でのコミュニティづくりについて前向きに検討していただき、両名を含む運営委員会が結成されつつある。

(3) 総括

前述のとおり、①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み（属人的でない繋がり）、②雲南市で起業する都市部人材の獲得、③コーディネーター力の養成および④地域内のローカルベンチャー機運の醸成の4点の課題に対して、本協議会との連携により一層の深化が見られている。

今期はこれまで以上にローカルベンチャーラボを効果的に活用し、雲南のチャレンジャーたちと協議会のリソースを接続することができた（①②）。また、中間支援組織たる当法人の今後の新機軸として林業および山林活用分野や人材分野における支援のあり方についても協議会の関係者から助言をもらうことができた（③）。

さらに、「ローカルベンチャー」という世界観を従来の幸雲南塾コミュニティから商工業者のコミュニティに広げる試行を開始した（④）。

4.4. 情報発信人材の育成

今年度、公益財団法人うんなんコミュニティ財団と協働し、情報発信人材の育成を行った。その背景および実績は以下のとおりである（その他、詳細は添付資料に記す）。

■情報発信に関する背景・課題

雲南市では市民の活動を応援する活動が盛んに実施されているものの、その事実を活動する人やその周囲の人以外に周知することが困難な現状がある。背景には、地域の取り組みそのものに関して無関心、個人や家庭内・学校や職場の範囲での活動が精一杯でゆとりがない、年代ごとや分野ごとで意識や考え方が異なり壁があること等がある。

■計画及び実施結果(うんなんコミュニティ財団設定)

	初期値	2020年度計画	2020年度実施
周知・リーチ数 (SNS、チラシ等)	0人	1,000人	1,099人
情報発信講座の開催	0回	5回	5回
情報発信講座参加者	0人	50人	37人
情報発信支援等	0人	10人	12人
情報発信人材数	0人	10人	15人
記事数	0点	20点	19点

4.5. その他課題解決人材の育成に関する取り組み

(1) チャレンジ創生PT会議等ソーシャルチャレンジを加速する取り組み

PT会議（ランチ会含む）出席、ソーシャルチャレンジ発表番組出演など。

また、チャレンジ生態系を支える資金調達の仕組みである一般財団法人雲南コミュニティ財団（9月に公益法人として認定）の伴走支援を実施。

(2) その他地域課題解決にかかる案件組成のための協議など

主なものは以下のとおり。

	協議の相手	今後の展開（可能性）
1	(公財)東近江三方良し基金 ■■■氏、(公財)南砺幸せ未来基金	幸雲南塾から設立された(公財)雲南コミュニティ財団と協業し、休眠預金を活用した助成事業を実施
2	(株)VUILD ■■■氏 (有)三ツ和 ■■■社長	(有)三ツ和が建材を3Dデータから切り出すShopbotを導入しVUILD社と協業
3	(一財)トヨタモビリティ基金	雲南におけるモビリティ課題解決について案件組成から協業できる
4	(株)トビムシ ■■■氏・■■■氏	同社が飯南町で林業の6次産業化を手掛けるため、商品企画や人材育成で協業する
5	光プロジェクト(株) ■■■氏など	遠方地域からのショッピングリハビリ活用のためのモビリティ連携について休眠預金を活用
6	(一社)みかたネット ■■■氏	学習障害の子のための放課後等デイサービスの設立についてスペシャレを活用。その保護者のつながりづくりについて休眠預金を活用。
7	(一社) うんなんダイバーシティ	地域内の連携による外国出身市民の孤立化防止

	toiro	のモデル地域づくりのため休眠預金を活用
8	(一社) みつめる旅	五島列島でのワーケーション企画の実績をもとに雲南でのワーケーションに助言をいただく
9	おもしろ法人カヤック／ソーシャルアクションカンパニー／(一社)社会変革推進財団	コミュニティ通貨の実証実験について協議(検討の結果、導入を断念)

4.6. コーディネーターの支援力向上

コーディネーターがそれぞれの得意分野を生かしたスキルアップのための研修会への参加を行った。

従前より、アドバイザーから、中間支援組織に必要な8つの機能の提示を受けていたことを受け、本年度も前年度に引き続き、とくに相談対応力とコーディネート・ネットワーキング力の向上を重点課題とした。

(参考) 『中間支援組織が持つべき8つのチカラ』

1. 相談対応力
2. 調査・情報収集力
3. 編集・発信力
4. コーディネート・ネットワーキング力
5. 資源提供力
6. 内部の人材育成力
7. 政策提言力
8. 施設運営力

具体的には、下記の研修に取り組んだ。詳細は添付書類を参照。

(1) ジェレミー・ハンター特別講座

「Special Session for Social Leaders in Japan～セルフマネジメント1～」

開催：令和2年7月15日、22日、29日、8月5日（オンライン開催）

(2) ジェレミー・ハンター特別講座

「セルフマネジメント2・マインドフルネスで結果を変える

～反応的な感情を自覚し、選択肢を広げる～」

開催：令和2年11月4日、11日、18日、25日（オンライン開催）

(3) 北海道下川町・東川町視察

開催：令和3年3月14日～16日

訪問先：(株)北の住まい設計所、NPO法人しもかわ観光協会、NPO法人森の生活等

5. 地域の持続可能性を高める仕組みの検討

(1) これまでの幸雲南塾等による地域の持続可能性への影響の評価

a. (振り返り) 2011年～2015年までの影響

2016年に調査を実施したリサーチによると、

- 幸雲南塾第1期（2011年開催）から第5期（2015年開催）までに参加した事業数は**52事業（のべ56事業）**。
- そのうち、自ら事業を継続して売上創出（自己雇用未満）、自己雇用、雇用創出をした事業は**28事業（53％）**であった。
- 自己雇用も含め**51名**の新たな雇用が生み出された。
- 総予算（売上高）は**1.7億円**であり、産業連関表を用いて算出した経済波及効果は**2.8億円**であった。

b. 2016年～2020年における影響

今回、新たにまとめたところによると、

- 幸雲南塾第6期（2016年開催）から第10期（2020年開催）までに参加した事業数は**30事業**（うち2事業は2015年以前にも参加）。
- そのうち、自ら事業を継続して売上創出（自己雇用未満）、自己雇用、雇用創出をした事業は**18事業（60％）**であった。
- 2021年3月現在、自己雇用も含め**40名が雇用されている**。
- **総予算（売上高）は約3.6億円**であり、産業連関表を用いて算出した**経済波及効果は約6.2億円**であった（なお、スペチャレ・ホープによって支援した事業も含める（幸雲南塾との重複を除く）と、それぞれ約3.7億円、約6.3億円）であった。
（※上記は速報値であり、精緻なヒアリングによって変動する可能性がある。）

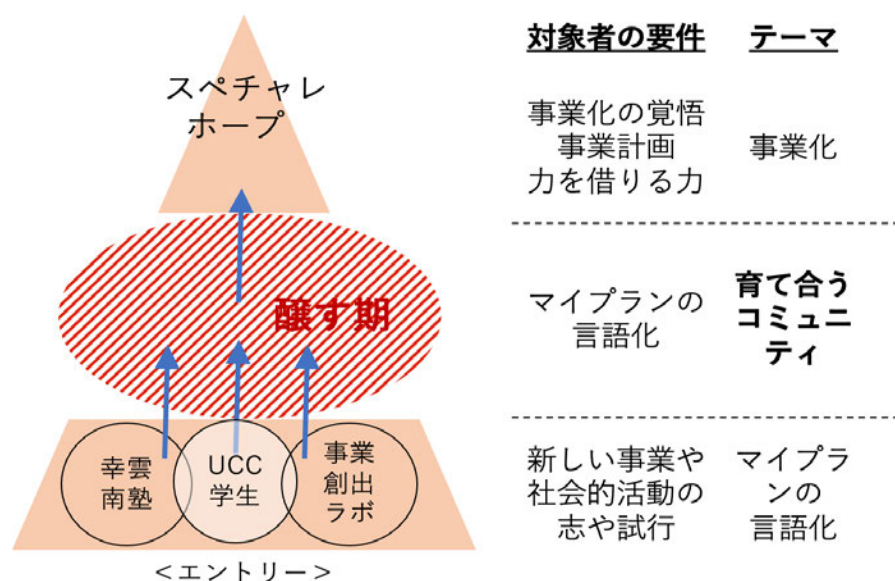
(2) 考察および今後の雲南市の持続可能性を高める仕組み

2016年～2020年における売上高および経済波及効果が、2011年～2015年までにおけるものよりも増加し要因は、幸雲南塾の対象が、事業構想のステージがより進んでいる事業や事業規模がより大きい事業を対象とするようになったことである。

短期的に言えば対象をこのように定めることによって地域により大きなインパクトをもたらすことができることが明らかである。そこで、まずはスペチャレ・ホープをはじめとする**事業化をサポートする仕組みの拡充が必要不可欠**である。

他方、事業化のステージに入るチャレンジャーを増やすために、初期の幸雲南塾が果たしていた「アイディアを膨らます」機能や「地域の方とつながる」機能も必要であり、これらは車の両輪であると言える。チャレンジの数を増やすことがチャレンジの質を高める。

このような観点から、来期以降の若者チャレンジ生態系のあり方を構想し、以下の具体的な施策案に至った。



(おっちラボ第9期事業計画より抜粋)

①エントリープログラム群：地域おせっかい会議、うんなんコミュニティ財団と連携した「アイデアを膨らます」「地域とつながる」機会づくり

課題解決を軸としたプロジェクトを発掘する「幸雲南塾」、事業者の新規事業の種を発掘する「事業創出ラボ」、大学生のチャレンジを発掘する「U.C.C」の3つのプログラムを、入口として用意する。いずれも、実現したいことの方向性を言語化することを目的とする。

これらのプログラム参加者が、市民とつながってアイデアをもらいたい場合には「地域おせっかい会議」にて市民からアイデアを募集することができる。また、寄付を集めて活動をしたい場合には「うんなんコミュニティ財団」による地域密着型のクラウドファンディングを活用できる。

これらの各プログラム間での案件情報の共有をできる体制を構築する。

②言語化されたアイデアを事業計画にしていけるための「醸す」コミュニティ

a. 全体概要

①のプログラムを経たチャレンジャーが、相互に各案件に対する意見を出し合い、ブラッシュアップをしていく場（関係性）をつくる。

言語化されたアイデアを「事業計画にし、事業化の覚悟を決め、あらゆるリソースを駆使して実現できる」というステージに至るまでには、チャレンジャーによってかかる期間もたどる試行錯誤のプロセスも様々である。そのため、この領域は伴走支援には不向きである。そこで、雲南でチャレンジする者どうしが互いを高め合うコミュニティに自由に参入・退出しながら、機会を掴み取っていくという場が効果的ではないかと考える。

具体的なコンテンツに関しては、商工会青年部層の事業者などと構成する運営委員会にて、参加者の状況を観察しながら適宜企画していくことを想定している。将来的には、中間支援組織が介在しなくても自主運営されるコミュニティとなることを目指す。

起業家精神（やってみよう・なんとかなる・ありがとう・わたしらしく
+“借り物競走力”）が育つコミュニティ作り。結果を急がず、“待つ”。
以下のような**行動のヒントとつながり**をもらえる機会。

チャレンジ
・等



■内容例

事業ブラッシュアップ

本格的な事業化に向けて計画をブラッシュアップ→経営者等による壁打ち

少人数プロジェクト！

商品企画・イベント出店等の“お試し”

遊び！

スポーツ
やBBQなど

妄想プレゼン会

おせっかい会議とコラボ

外部勉強会！

各種機会と接続

人材！

紹介の機会

コミュニケーション

外部機会の情報や提言、広報を気軽に書き込める掲示板

■体制

【運営委員】地元経営者や起業家等5名程度

【事務局】 〇〇氏、おっちラボ 〇〇

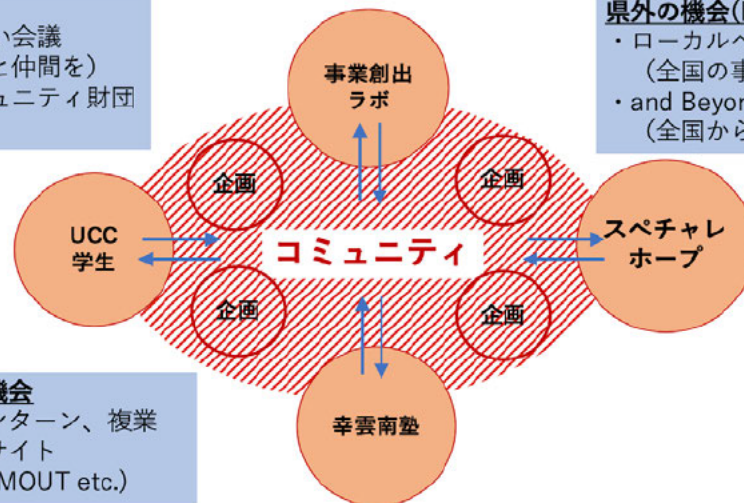
（おっちラボ第9期事業計画より抜粋）

市内の機会

- ・地域おせっかい会議
（アイデアと仲間を）
- ・うんなんコミュニティ財団
（寄付募集）

県外の機会(ETIC.等)

- ・ローカルベンチャーラボ
（全国の事業家仲間と）
- ・and Beyond Meeting
（全国からアイデアを）



人材獲得の機会

- ・実践型インターン、複業
- ・人材募集サイト
（Drive/SMOUT etc.）

（おっちラボ第9期事業計画より抜粋）

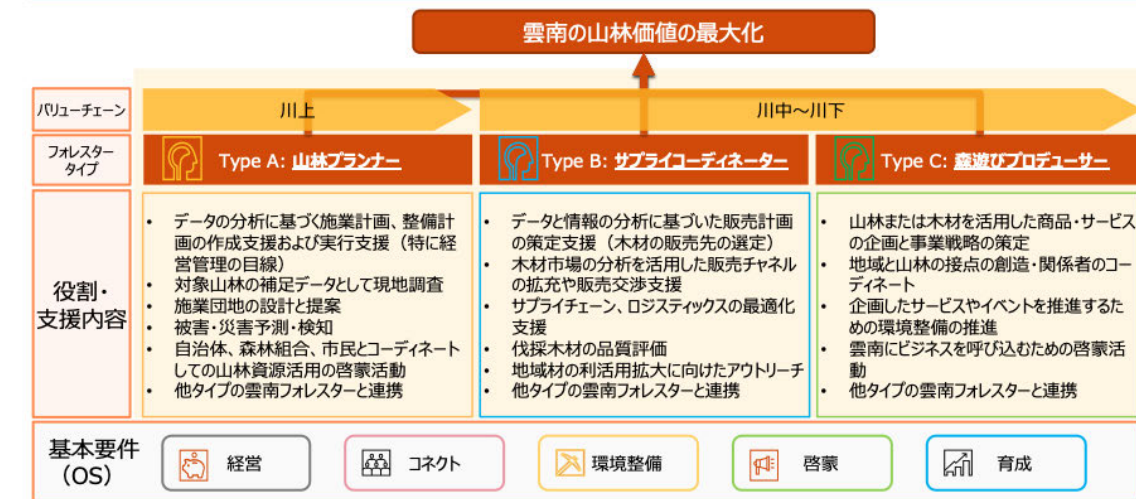
b. 個別テーマでのコミュニティ

今期、雲南住民の重大な関心事のひとつである山林課題に関する人材育成のあり方検討を行った。PwCコンサルティングとの協業により、必要な人材を定義した。その結果、林業や山林管理・活用においては、「山林プランナー」「サプライコーディネーター」「森あそびプロデューサー」といったタイプの人材が必要であるという整理に至った。そして、それらを「雲南版フォレスター」と総称して人材育成を仕掛けていくことを構想した。

来期、「雲南版フォレスター」の候補人材群をまとめて支援することで、この分野の人材育成の端緒としたい。雲南に関わる建築家集団であるTeam TENT.とも協議をし、山を活かした暮らしづくりから木材の活用まで広範囲の取り組みを生む土壌づくりを計画している。

※フォレスターの人材像 - ①役割、スキル、モデルの定義

- 各OSの定義を踏まえ、雲南のビジョンと林業のバリューチェーンにおいて求められる役割（フォレスタータイプ）を設定
- 各フォレスタータイプは基本要件を備えつつ、各役割に特化することで「雲南の山林価値の最大化」を目指す



PwC

1

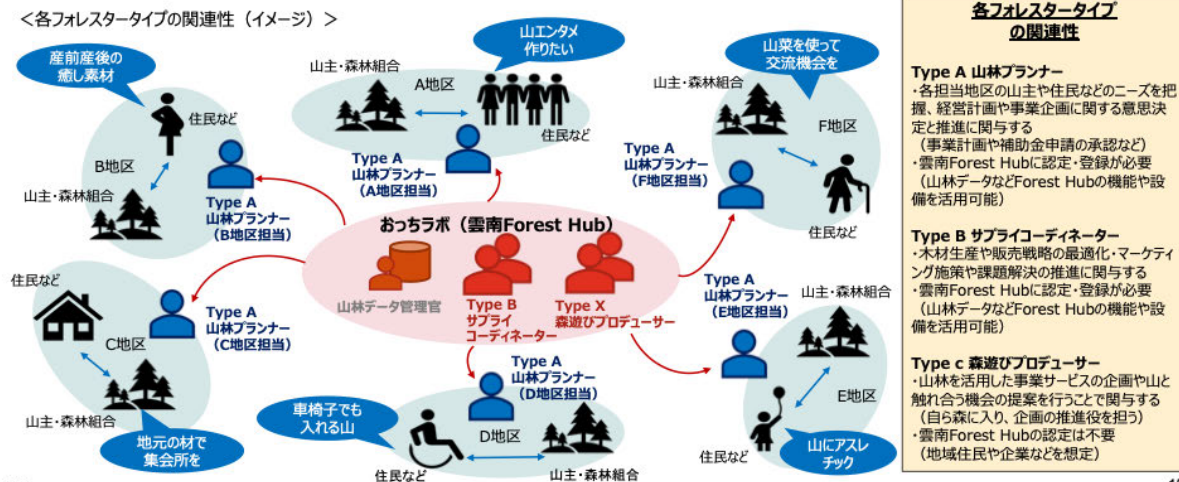
※フォレスターの人材像 - ①役割、スキル、モデルの定義

- 各フォレスタータイプの役割と関連性について、イメージ案として以下の通り整理
- 山林プランナー（Type A）とサプライコーディネーター（Type B）は雲南Forest Hubに認定された機能としての役割を果たし、森遊びプロデューサーは住民や企業などが自由に山林活用に関与することで、相互に補完して「山林活用の自治」を果たすモデルを思料

■ 今後固めるべき事項

- ・役割の過不足
- ・各フォレスターの収益モデル
- ・Forest Hubの関わり方の整理

<各フォレスタータイプの関連性（イメージ）>



PwC

15

③事業化に向かうチャレンジを応援する仕組み

a. スペチャレ・ホープの拡充

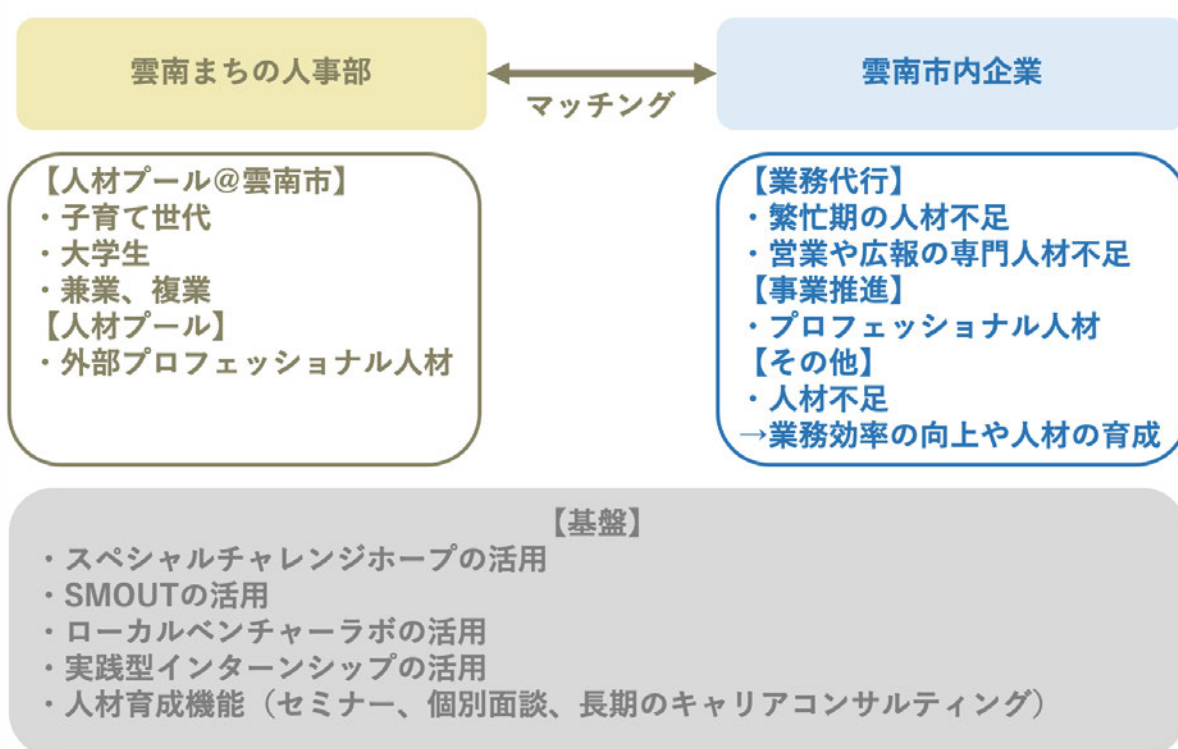
今後、スペチャレ・ホープが事業者にとっても魅力的な支援プログラムとなるように、現在200万円としている補助金の上限を引き上げる、採択者の活動状況の発信を工夫する、後述する人材の課題に対応するなどしていく必要がある。

b. 人材課題に対応する「まちの人事部」

事業化に向かうチャレンジャーのにおいて「新しいことを始めたいが企画と遂行を任せられる人材がない」という課題が顕在化してきた。

そこで、地元企業への実践型インターンのコーディネートをしてきた一般社団法人Community Careersなどを中心として、学生や複業人材、専門家人材などを人材ニーズのある事業者につなげていく「雲南まちの人事部」という新たな機能が必要である。今期、Community Careersのほか一般社団法人Work Design LabやNPO法人ETIC.との協議の中で、不特定多数とのマッチングではなく「特定多数とのマッチング」を進めるべきとの方針を決め、雲南に関わりの深い「関係人口」のリストをもとに、今後マッチングに向けた試行をしていく予定である。

雲南まちの人事部 中長期ビジョン



令和２年度
木材利用推進戦略策定等業務
報 告 書

令和3年3月

合同会社グリーンパワーうなん

目次

I．木材利用推進戦略

II．委託業務実施報告及び木材利用推進戦略の背景等

III．資料

令和3年度 雲南市木材利用推進戦略 (案)

令和3年3月25日

戦略案サマリー

戦略案事業区分	背景・課題	戦略の方向性（中長期）	具体的な施策（短期）	関係者の役割
①林業振興（方針）策定・協議会運営	森林・木材産業全体を包括する将来ビジョンを、関係者が共有する必要がある。	50年後を目標とした森林整備・活用による林業振興と木材加工・販売事業の将来像を明示する。将来像の実現に向けたロードマップを作成し、戦略を推進する。	・戦略を推進する体制を整備する。 ・戦略を推進を担う人材を育成する。 ・協議会を通じて戦略の進捗管理を行う。 ・戦略の適宜見直しを行う。	・関係者が将来ビジョンを共有し、木材利用推移新戦略を推進する。 ・協議会に参加し、戦略に沿った補助事業等の実施を進める。
②森林資源データベース構築、森林経営計画策定	森林資源データベース（GIS）の構築、活用に向けた技術を利用できる環境が整いつつある。データを管理・活用できる体制整備が必要。データを活用した計画策定が必要。	・森林資源データを効率的、効果的に取得し、データを活用して優先順位が明らかな森林経営計画を策定する。 ・計画の実行体制（ハード、ソフト、人材）を整備する。	・航測、ドローン、地上レーザ計測から森林資源GISを構築する。 ・新たな森林経営計画を策定する。（地域の合意形成を図る。） ・GIS関連技術、経営計画策定を担う人材を育成する。	・市：調整、予算執行 ・林業事業体：体制整備、計画策定、人材育成 ・専門事業者：GIS、計測技術提供 ・学術機関：技術監修
③山林集約化、施業実施、集落による里山整備	森林資源データを活用し、住民合意を得て集約化施業計画を策定し、施業を推進する必要がある。	・森林資源データを活用し効率的に集約化した施業計画を策定する。 ・集落、住民の合意を得る。 ・円滑に施業する体制を整備する。 ・施業計画外の山林の整備について、集落での対応を推進する。	・林業事業体による集約化施業計画を策定する。 ・林業事業体と住民座談会方式により合意形成を図る。 ・施業計画を実施する体制を構築 ・集落で行う里山整備計画を策定。 ・実施するための人材育成を行う	・市：地元調整、予算執行 ・林業事業体：施業計画、住民合意形成、施業実施 ・GPU：集落の里山整備支援
④木材流通拠点施設を核とした木材販売、製材・木工製品の販売	R3年度から2流通拠点施設体制となる。流通拠点施設に原木を集め、優位に販売する体制が必要。木材、製材、木工商品の販売促進を図る必要がある。	・流通拠点施設を活用して効果的かつ優位な木材流通システムを構築する。 ・原木販路拡大と、サプライチェーンマネジメントの強化を図る。 ・木材利用の新たな商品化進め、販路を拡大し、産業の体質強化を図る。	・流通拠点施設に原木を集めるため搬出・運搬補助を実施。 ・原木の選木精度を高め、情報を発信するシステムを導入する。 ・木材を利用した商品づくりと販路開拓を推進する。 ・事業運営を担う人材育成を実施。	・市：全体調整、予算確保・執行 ・林業事業体：原木集積、選木、用材販売 ・GPU：流通拠点施設管理、情報発信、販路開拓 ・製材、木工事業者：商品開発、販路開拓
⑤木材利用の多様化及び山林空間活用推進事業	既定観念に捉われない木材利用の方法を模索するとともに、山林自体を魅力的な空間として、人を山に呼び込む取組みが必要である。	・木材、木工関係者が木材利用の多様化を検討し、推進する。 ・森林を所有する事業体が、森林に誘客する空間整備、演出を行い、収益事業として確立する。	・商品開発コンサルタントと連携して木材を利用した商品、事業、イベントづくりを推進し、事業化を図る。 ・森林への誘客エリアを整備する。誘客エリアへの案内機能を整備する。誘客イベントを実施する。	・市：コンサルタント契約 ・林業事業体：空間・案内整備 ・製材・木工事業者：木材利用商品、事業、イベントの事業化 ・GPU：事業推進への協力

各戦略の関係性

～木材推進戦略策定から実行計画へ～

適正な整備による豊かな森林づくりに必要な要素

産業発展
(木材産業
力の強化)

戦略③

戦略④

戦略⑤

戦略②

技術革新
(専門テー
マの強化)

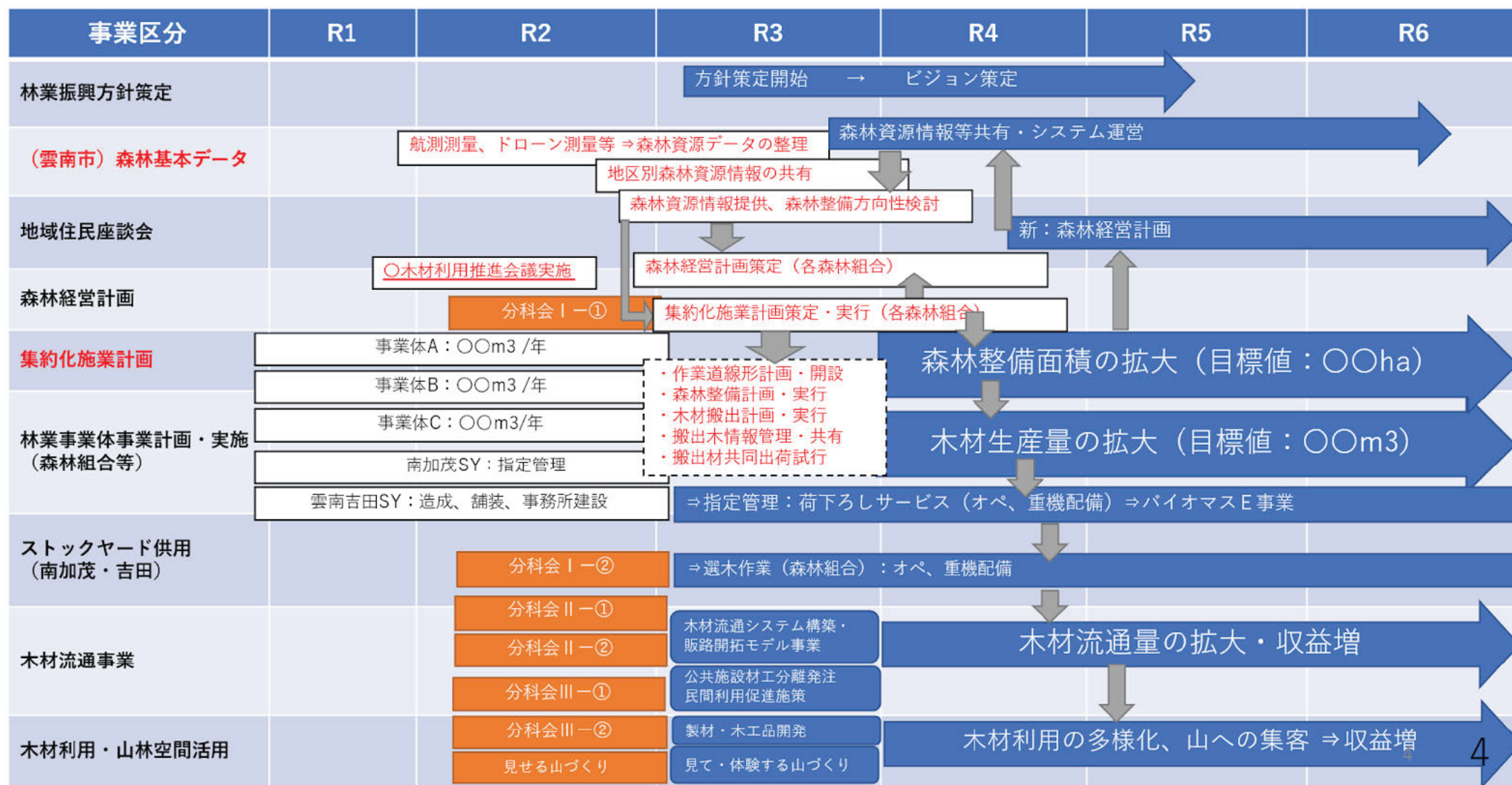
人材支援
(林業技術
者の充実)

戦略⑥

戦略①

長期ビジョンの策定
(既存の指針に基づいた森林の将来像を設計)

戦略スケジュール



戦略①

事業区分	検討の方向性	実施内容	期待する効果	想定予算
① 林業振興 方針（森づくり構想） 策定	・森づくりから木材利用まで森林資源と木材関連産業全体を包括する長期的な計画を雲南市のみんなでつくる ・各事業の連携を促し、林業振興を長期的視点から実行していくための土台となる事業が必要 ・関係者の協働で林業振興方針素案を作成し、専門家も交えて実現性の高い実行計画を作成する（2ヵ年計画） ・本事業で想定される必要な検討内容 <u>将来展望の視点から考えて、質の高い森林資源データの効果的な取扱い・分析手法と管理体制、将来構想を踏まえた森林情報の活用方法（事業②）、ゾーニング的視点で森づくりや管理体制を検討、集約化施業計画の促進と住民との対話の方法（事業③）、産業力向上の方向性、サプライチェーンマネジメント強化の方針（事業④）、木工商品の開発、地域資源としての多様な森林の活用方法（事業⑤）、それら事業推進で必要となる人材の発掘、獲得、育成の方法、構想を実現させるための具体的な手法や取り組み等、構想素案に対して各分野の専門家からの知見を得る</u>	■令和3年度 「（仮称）雲南市森づくり長期戦略策定協議会」を組織、雲南市域の森林・木材産業関係者（各事業代表者）を構成員とし、年5回程度協議会を開催、作業部会が実務を担当、市民との交流を図る企画（森づくりシンポジウム等）を開催 ■令和4年度 「（仮称）雲南市森づくり長期戦略策定委員会」を組織、上記構成員代表に加えて専門家等を委員とし、年4回程度委員会を開催、作業部会が全体運営及び実務担当、市民との交流を図る企画（森づくりシンポジウム等）を開催 ・必要に応じて、作業部会が中心となり勉強会、現場視察、各種調査を実施する ・森林計画や構想策定手法等に詳しい講師を招聘することも想定、必要に応じて専門家に作成された素案の監修を依頼する ・計画、実行、評価、改善が繰り返し検証できるように事業全体を設計	・関係者の協働により林業振興方針（森づくり構想）素案が作成される（R3）、さらに、専門家の知見も踏まえ林業振興方針が策定される（R4） ・林業振興に関する将来展望が明確になり、本事業のプロセスを通して関係者の連携体制構築が促進される ・本事業の展開で発展の可能性が繰り返し検証されることで、雲南独自の方法論が関係者のなかで構築される ・関係者の自主性や積極性が醸成され、必要な情報集約と効率的で効果的な活動が促進される ・雲南市の目指す森づくりの将来像や開発された木材製品など、木材産業の取り組みが市内外へ広くPRされる ・森づくり構想を実現させる実行計画について、方法論が議論されることで森づくりの手法が身につく。例えば、森林認証制度の枠組みが活用できる等	※令和3年度のみ※ 【実施事業】 ・林業振興方針策定・協議会運営業務委託 3,075千円 【関連施策】 ・新たな森林管理システム推進業務委託 3,434千円 ・森林管理推進員の配置 2,173千円 ・林政アドバイザー配置 0千円

戦略②—戦略③

事業区分	検討の方向性	実施内容	期待する効果	想定予算
②森林資源データ計測及び活用推進事業	・GISデータの取得・分析技術を適用し、森林資源情報を整備し、その情報を有効活用して、森林経営計画の策定を進める。 ・森林整備にかかる事業実施にGIS、レーダー計測技術を適用し、行政、事業者、現場における省力化、コスト削減を進める。それらの技術を活用して新たな業務の開拓を図る。 ・森林資源データの取得、加工、管理運営体制を整備する。データを利活用する人材の育成を進める。	a. GISデータの取得（観測・計測）と分析を実施する。 b. 市、森林組合、森林所有者等が森林資源データを活用し、経営分析ができるようにするとともに、データと現場を結ぶソフトの開発と実用化を行う。 c. 森林資源データを活用した森林経営計画を作成する。地域にわかりやすく計画を説明する。 d. 森林情報を活用し、森林経営計画の作成や施業現場に生かしていく人材確保と組織づくりを行う。	a. 森林資源量と質が可視化され、活用に向けた基盤が作れる。 b. 森林整備事業の検査作業等の省力化とコスト削減が図れる。 c. 森林経営計画作成の迅速化、説明資料の高度化が図れる。 d. 人材を集積した組織ができれば森林整備が格段に進む。測量や調査業務など林業事業体の新たな仕事の獲得につながる。	【実施事業】 ・新たな森林管理システム推進業務 3,434千円 ・森林現況調査 8,280千円 ・航空レーザ計測 19,706千円 【関連施策】 ・森林GIS・林地台帳システム保守・更新業務 852千円
③山林集約化促進事業	・森林資源データに基づいて、山林集約化施業計画の策定と実行を推進する。 ・住民座談会を開催し、集約化施業計画について住民（山林所有者）との合意を図る。 ・森林経営計画に含まれない山林の集落での整備方法を検討し、実施する。 ・集約化施業計画及び集落での森林整備計画の実行をサポートする。 ・集約化施業を実施する体制を整備する。	a. 森林資源データと地域状況を勘案し、山林集約化施業計画を実行する。（作業道計画、搬出材積計画、修正計画）地区に優先順位をつけて実施する。 b. 住民座談会を開催し、集約化施業計画の実施に向けて森林所有者である地域住民の意思決定を進める。 c. 造林地だけでなく集落での多様な森林整備計画及び事業実施を推進する。事業実施を支援する補助制度を整備する。森林バイオマス事業の市民搬出材の増加を図る。 d. 地域合意を進めるコーディネート人材を確保する。森林組合の他に集約化施業を請け負う事業者を増やし、施業実施体制を強化する。	a. 市内の林業事業者にとって、施業の見通しがたち、経営の積極性につながる。 b. 山林の収支を明らかにすることで集約化施業計画に対する理解が深まり、他地域での計画推進が円滑に進むことになる。 c. 集落住民の里山への関心が高まる。鳥獣対策、災害対策に寄与する。市民登録者の活躍の場が増える。 d. 地域合意が円滑に進むことを期待する。林業に従事する人が増える。産業としての重層化が図れる。	【実施事業】 【関連施策】 ・森林整備推進員配置 2,256千円 ・森林バイオマスエネルギー事業 9,680千円 ・森林整備推進事業費補助金 14,903千円

戦略④—戦略⑤

事業区分	検討の方向性	実施内容	期待する効果	想定予算
------	--------	------	--------	------

④木材流通拠点施設を核とした木材販売、製材・木工製品の販売	・2つの木材流通拠点施設を整備したことを活かし、原木の集積を図ることで森林バイオマス事業や木材流通事業の振興を図る。原木集積に向けて、搬出補助事業、荷下ろしサービスなどを進める。 ・2施設に集積した原木の情報を整理し、選木精度を高めること、原木情報を発信しマーケットが入札・購入できる体制を構築することで、原木の優位販売を推進する。 ・雲南圏域での連携体制を構築し、用材・合板材の共同出荷を推進する。 ・製材、木工商品（従来製品）の販促強化を図る。 ・木材流通システムを運営する体制づくりと人材育成を推進する。	※2つの木材流通拠点施設の指定管理をグリーンパワーうんなんが実施する。雲南吉田SYは、飯石森林組合から事務員、選木担当職員を置く。 a. 2つの木材流通拠点施設を活用して、森林バイオマス事業及び木材流通事業を推進する。2施設に原木を集約するために、搬出補助事業や荷下ろしサービスを実行する。 b. 3D計測技術を導入し、選木内容を高度化し、原木の優位販売ができる体制を整備する。 c. 原木販売プラットフォーム（PF）を整備し、選木現場とPFを結んだ仮想市場をつくり、マーケットが原木を入札・購入できるようにする。 d. 2施設とPFを活かし、雲南圏域の原木の共同出荷を実施する。 e. 市民搬出の原木を製材、木工に利用する事業を検討するとともに、製材、木工製品の販路拡大、販促強化を進める。 f. 2施設を活用したサプライチェーンマネジメントを実施できる体制を整備し、人員を確保する。	a. 市内の原木を集積することで、市場機能、優位販売、共同出荷など新たな体制を作ることができる。 b. c. 原木が現状より価格優位に販売できることで収益の増加が期待できる。 d. 雲南圏域で連携した共同出荷により運搬コストの低減ができ、収益改善ができる。 e. 市民搬出の広葉樹などがマテリアル利用されることで、山林への資金還流が改善できる。 f. 林業事業体等の効率的な人員配置ができる。新たな雇用が広がる可能性がある。	【実施事業】 ・木材流通体制構築事業 795千円 【関連施策】 ・森林整備推進事業うち⑤木質バイオマス搬出支援 6,000千円及び⑦搬出木材流通支援 150千円 ・市産木材利用促進事業 2,850千円
⑤木材利用の多用途化及び山林空間活用推進事業	・市内の商品加工技術と木を用いるマーケットのニーズを踏まえて、既定観念に捉われない木材利用を推進し、市としての木のブランドづくりを進める。 ・木を用いた商品の販路開拓を目指し、プロモーション活動を推進する。販路拡大を目的とするイベント等を推進する。 ・森林を活動しやすいフィールドに整備し、様々な森林体験が可能な空間とする。この空間を活用したイベントや景観を演出し誘客を図り、収益事業として確立させる。	a. 商品開発コンサルタントが報告する調査結果を踏まえて、市内事業者等が商品コンサルタントの支援を活かして新たな商品開発を実施する。 b. 商品開発コンサルタントと連携して、開発した商品を中心に既存の木製品を含めた販売プロモーションを実施する。全国的な商品出店イベントへの参加や地域内での販促イベントを実施する。 c. 新商品をはじめ木工製品を販売するサイトを立ち上げ、商品の販売促進実施する。 d. 事業者所有森林をフィールドとして、森林体験が可能な空間整備を実施する。空間を利用したイベントを行い誘客を図る。来客者の案内機能を整備する。	a. 市内事業者による新商品開発ができることで、新たな事業の進展が期待できる。 b. 新商品と既存商品の販売促進が図られることで、事業者の収益が拡大する。産業としての成長が得られる。 c. 商品販売サイトにより、新たなマーケットが開かれる。 d. 森林資源と林業を活かした空間整備ができることにより、雲南市へのファンの拡大が期待できる。	【実施事業】 ・現時点で計上予算なし 【関連施策】 ・公共建築物の木製備品購入等 1,000千円 ・山村活性化支援交付金 3,000千円程度

事業区分	検討の方向性	実施内容	期待する効果	想定予算
⑥人材育成	・前記②～⑤において配置が必要となる人材を活用・発掘・獲得・育成する。既存人材の適材適所での活用・育成を進めるとともに、従来の人材採用方法にとらわれない多角的なアプローチを実行する。 ・【活用】林業事業体に所属し、山林施業等に従事する人材を、戦略の各分野に適切に配置し、能力を発揮できるようにサポートする。 ・【発掘】山林と関わることに興味のある人材に幅広く網をかけ、そのうち実行力のある人材により重点的なサポートをする。 ・【獲得】市外からの専門人材や山仕事に関心のある人材の誘引となる情報発信と財源措置を強化する。 ・【育成】次世代にとって魅力的な職業とすべく「雲南版フォレスター」構想（次頁参照）を固め、その育成プログラムの試行をする。とくに経済価値・環境価値の創出と情報技術の活用を重点要素とする。	a. 各林業事業体で、山林プランナーとなる人材をピックアップし、実践コミュニティを形成する。指導人材が、OJTでの実践的な研修を行う。 b. 林業の担い手補助金を改定し、研修を促進する内容とする。 c. 林政アドバイザー制度を活用して専門家を配置し、森林情報を活用して森林経営計画の作成や施業現場に活かしていく人材のOJTを行う。 d. フォレスター人材の発掘・育成の端緒として、山林空間を活用した活動を事業化した起業家人材の実践を支援する“森あそびラボ”を実施（全国的な事業化支援組織や大手企業と協働）。 e. 市内で里山整備への市民参画を広げる人材に、市民財団を通じて助成金を給付する。 f. 自伐的林業家のような機動的に施業できる人材の育成機会確保のため山林所有者のニーズを受け付ける窓口を開設する。 g. 林業や山林活用の人材募集のためのブランディング・情報発信。また、人材獲得の予算として地域おこし協力隊制度等との連携を構築。	a. 林業事業体への若手人材の定着率を向上 b. 森林情報を活かせる人材を既存事業体の中に育成し、事務と施業を効率化 c. 山林活用の発想力と実行力のある全国の人材が雲南の山林の経済価値向上に寄与 d. より多くの市民が里山と関わり整備にも参加することで、民間による山林整備を進める e. 山林にかかわる人材の仕事の確保により収益の安定化と仕事としての魅力化 f. 山林に関心ある地域内外の人材が雲南に定着	b. 林政アドバイザー予算 c. 政策企画部の課題解決型人材育成事業 d. うんなんコミュニティ財団による基金（おっちラボからの拠出とふるさと納税等による資金集め） e. おっちラボ独自予算？ f. 林業課予算、特別交付金など

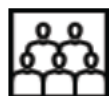
参考)フォレスターの人材像 - 役割、スキル、モデルの定義

- 林業における普遍的な課題やニーズへの対策として求められる基本要件のフレーム(OS)を以下の5項目に集約
- 前述の調査結果を踏まえ、各OSの定義は以下の通り



経営

- ・ 戦略やプロジェクトの計画立案
- ・ 数字やデータに基づく管理・分析
- ・ ファイナンスや法務等のバックオフィス系知識



コネクト

- ・ 組織やバリューチェーンを超えた価値創造のコーディネート
- ・ 地域や業界を超えた価値創造のコーディネート



環境整備

- ・ 林業経営に関わる実務レベルの知識習得とタスクの推進
- ・ 山林の状況把握、分析、対策検討



啓蒙

- ・ 企画や成果のアピールや価値訴求
- ・ ビジョンや戦略・計画の伝播、定着化を推進



育成

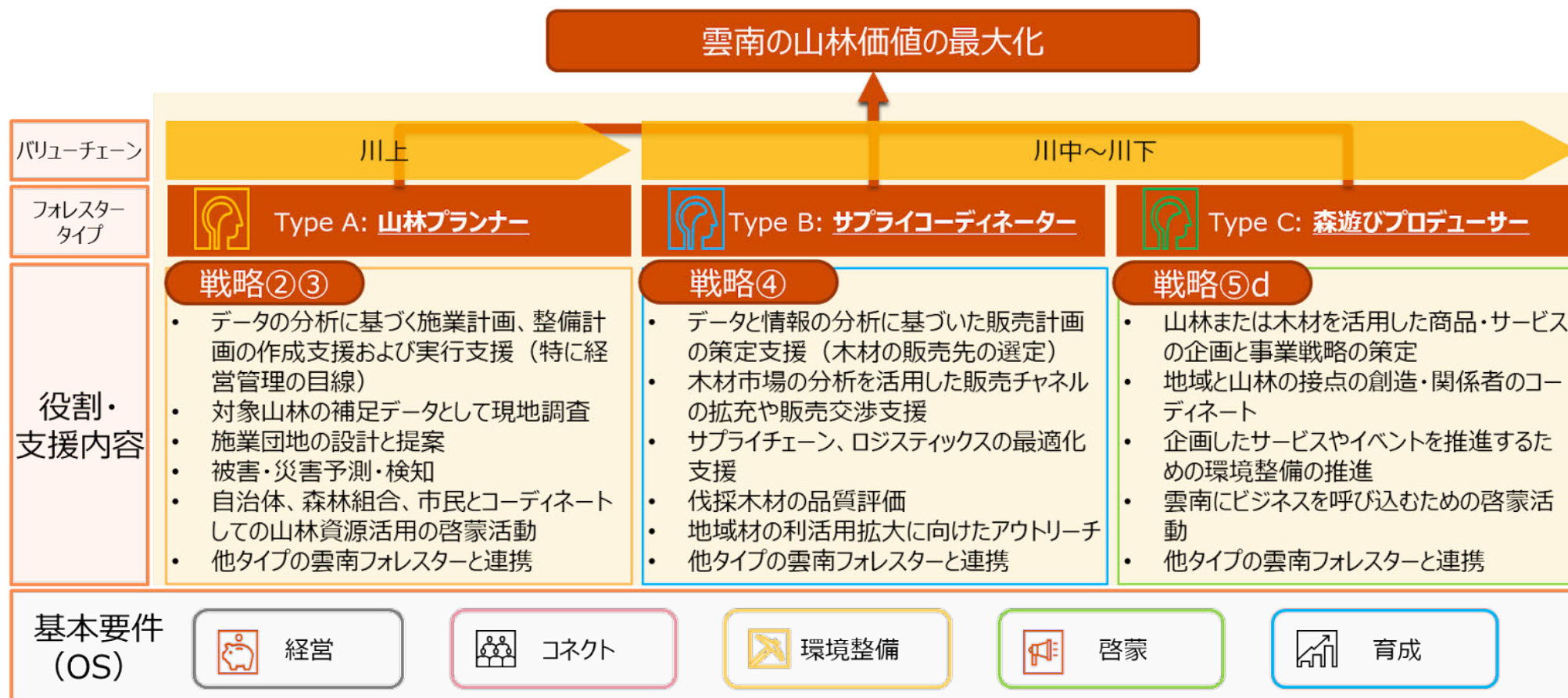
- ・ 次世代の候補者へスキルの伝授
- ・ 地域・組織に対して幅広く知識の伝搬・定着化を推進



雲南フォレスター

参考) フォレスターの人材像 - 役割、スキル、モデルの定義

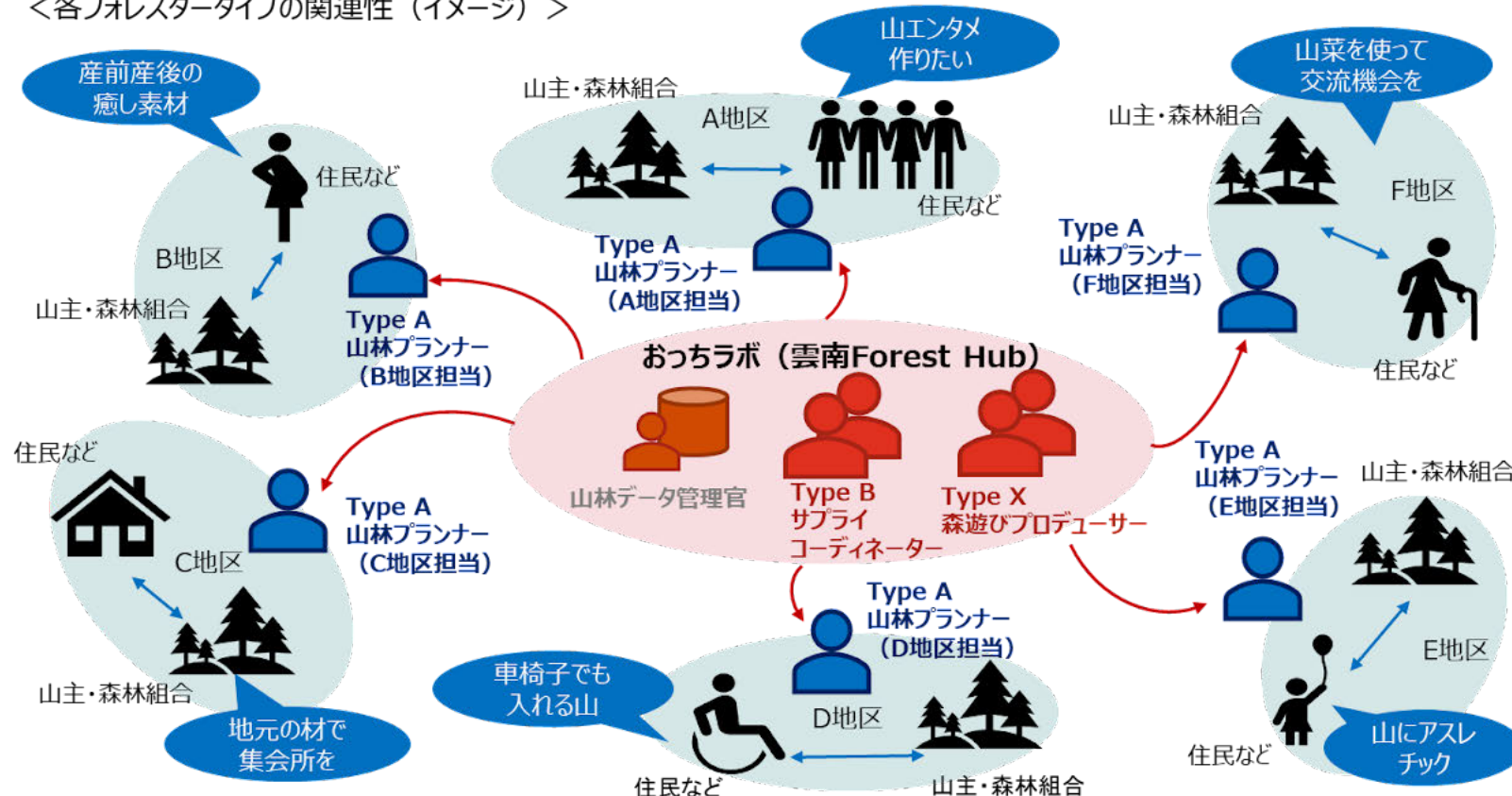
- 各OSの定義を踏まえ、雲南のビジョンと林業のバリューチェーンにおいて求められる役割（フォレスタータイプ）を設定
- 各フォレスタータイプは基本要件を備えつつ、各役割に特化することで「雲南の山林価値の最大化」を目指す



参考) フォレスターの人材像 - 役割、スキル、モデルの定義

- 各フォレスタータイプの役割と関連性について、イメージ案として以下の通り整理
- 山林プランナー (Type A) とサプライコーディネーター (Type B) は雲南Forest Hubに認定された機能としての役割を果たし、森遊びプロデューサーは住民や企業などが自由に山林活用に関与することで、相互に補完して“山林活用の自治”を果たすモデルを思料

＜各フォレスタータイプの関連性 (イメージ)＞



各フォレスタータイプの関連性

Type A 山林プランナー

- ・市、森林組合等の若手職員が対象。
- ・各担当地区の山主や住民などのニーズを把握、経営計画や事業企画に関する意思決定と推進に関与する (事業計画や補助金申請の承認など)
- ・雲南Forest Hubに認定・登録が必要 (山林データなどForest Hubの機能や設備を活用可能)

Type B サプライコーディネーター

- ・木材生産や販売戦略の最適化・マーケティング施策や課題解決の推進に関与する
- ・雲南Forest Hubに認定・登録が必要 (山林データなどForest Hubの機能や設備を活用可能)

Type C 森遊びプロデューサー

- ・山林を活用した事業サービスの企画や山と触れ合う機会の提案を行うことで関与する (自ら森に入り、企画の推進役を担う)
- ・雲南Forest Hubの認定は不要 (地域住民や企業などを想定) → Type Aと兼ねるのが現実的か

令和3年度事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

特定非営利活動法人おっちラボ

1 事業年度内の理事会・総会開催概要

①総会

・令和3年5月24日

開催場所：三日市ラボおよびオンライン会議システム

出席者数：10名（うち評決委託者4名）／正会員数10名

<報告事項>

第8期事業報告・第9期事業計画について

<決議事項>

第8期収支決算について

②理事会

・令和3年12月19日

出席者数: 4名

<提案事項>

定款変更決議の為臨時社員総会の招集

開催日:令和3年12月27日

開催場所:三日市ラボおよびオンライン会議システム

③臨時総会

・令和3年12月27日

開催場所：三日市ラボおよびオンライン会議システム

出席者数：10名／正会員数10名

<決議事項>

定款変更について

2 事業の概要および成果

別紙参照

3 事業の実施に関する事項

①特定非営利活動に係る事業

事業名	実施場所	事業実施の期間 (契約期間)	従事者数	受益 対象者数	事業費 (単位：円)
課題解決型 人材育成・ 確保事業	雲南 市内	H30.4.6～H31.3.31	4名	60名	経常収益 16,026,657 経常費用 ▲15,449,924 収支合計 <u>576,733</u>

以上のほか、次の事業を実施した。

	研修事業
経常収益	253,980
経常費用 (人件費除く)	▲61,904
収支合計	192,076

②その他事業

	業務代行事業
経常収益	337,800
経常費用 (人件費除く)	▲25,190
収支合計	312,610

NPO法人おっちラボ 第9期事業報告

2022.5.25 定時総会
文責：代表理事 小俣健三郎



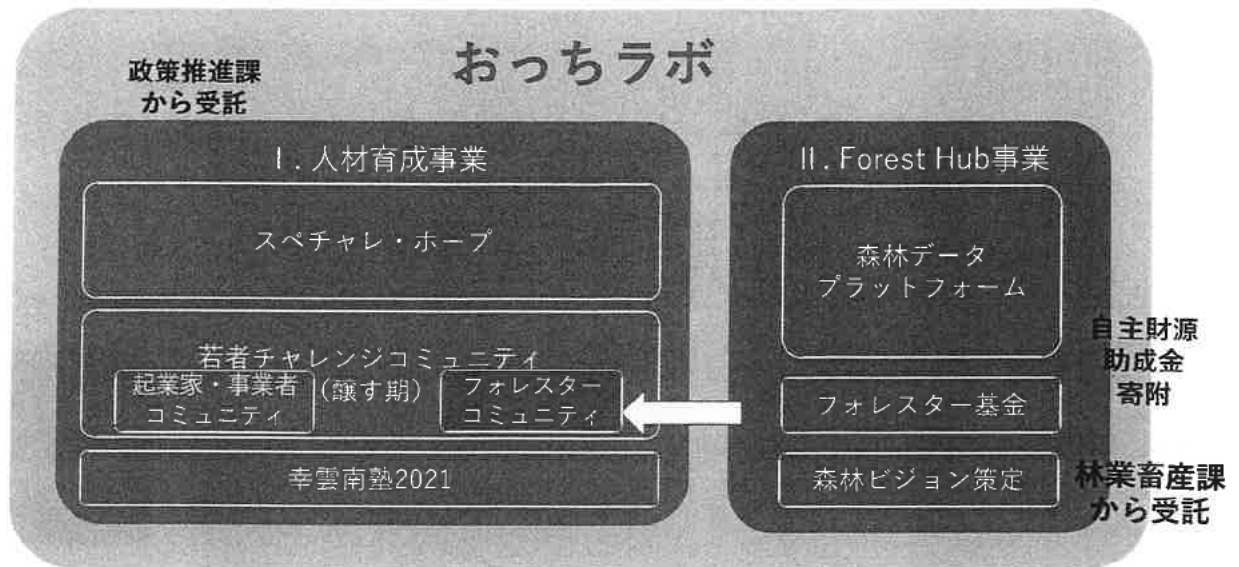
おっちラボの組織使命（役割定義）



「人の可能性を解き放つまちをつくること」

- 背景：おっちラボは創業以来、仕組みづくりではなく「人の可能性」を信じ、老若男女あらゆる人の力が発揮される土壌を作ること、雲南地域がのさまざまな課題が解決され持続可能になっていく未来を目指してきた。それは一定の成果をもたらした反面、まだ十分に発揮されていない「可能性」が見えてきている。雲南における支援制度には、このように人にフォーカスをするものではなく、依然としておっちラボが「人の可能性」にこだわり続ける必要がある。そこで、創業以来の精神を引き継ぎつつ、人の可能性を「解き放つ」ことにこだわっていく。
- そこで、われわれは、雲南にご縁のある人たち（居住、活動、出身etc.. 起業家に限らず、行政職員や生活者も含む）が、まちに対して希望を持ち、それに向けて何らかの行動をしていると自覚・実感し、その目指すものの活動成果につながっていることを「解き放たれた」状態と定義し、これを達成する事業を実施することとする。

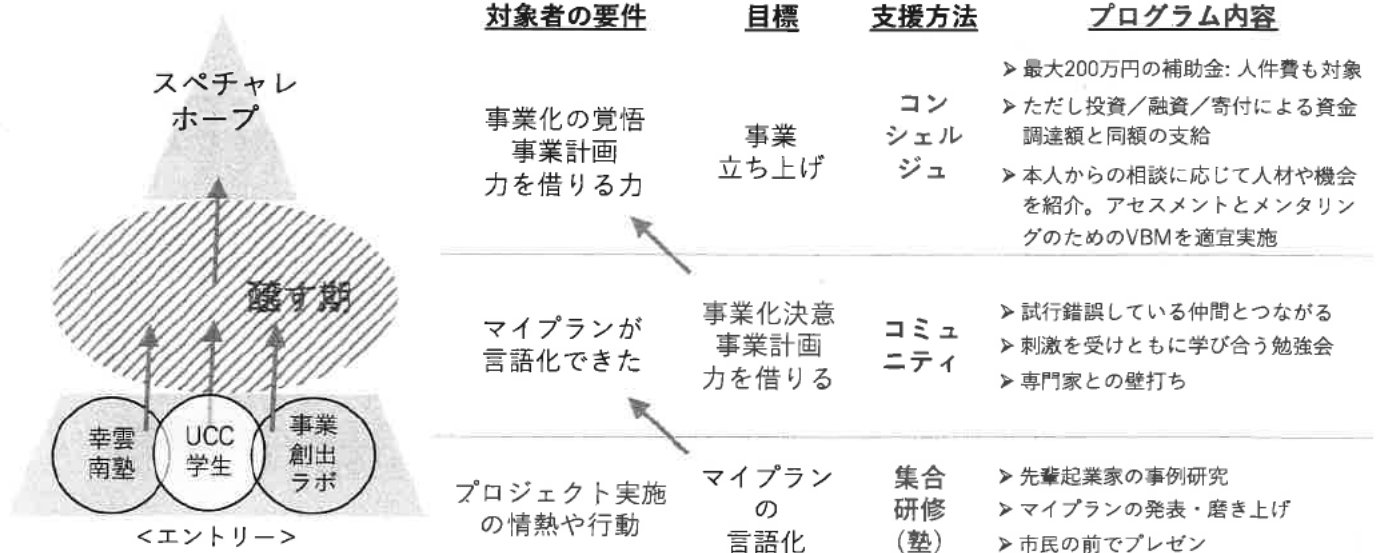
第9期事業計画概要



I. 若者チャレンジ人材育成：基本設計



起業家精神（「やってみよう」「なんとかなる」「ありがとう」「わたしらしく」）を体現し、自治を進化させる市民を育成する。





1. 若者チャレンジ人材育成：基本設計

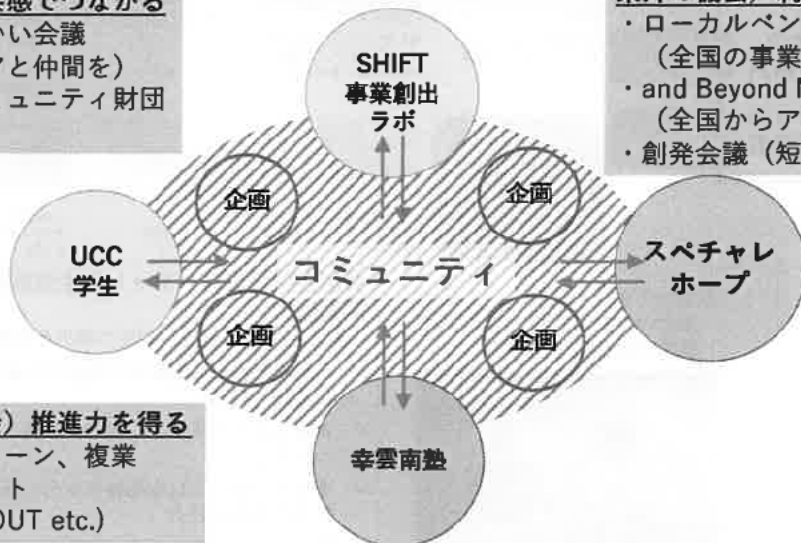
スペシャレ採択者や経験者も、必要に応じてこれらの機会に参加するよう促すことで、醸す期コミュニティ内の学び合いの質を高めていく。

市内の機会）共感でつながる

- ・地域おせっかい会議
(アイデアと仲間を)
- ・うなんコミュニティ財団
(寄付募集)

県外の機会）刺激で切磋琢磨

- ・ローカルベンチャーラボ
(全国の事業家仲間と)
- ・and Beyond Meeting
(全国からアイデアを)
- ・創発会議 (短期磨き上げ)



人材獲得の機会）推進力を得る

- ・実践型インターン、複業
- ・人材募集サイト
(Drive/SMOUT etc.)

1. 人材育成事業報告要旨

参考：令和3年度課題解決型人材育成事業 実施報告書



事業名	成果
スペシャルチャレンジ・ホープ	✓ 申請前の事前相談を18組に実施。最終的な申請者は4名、共創会議での審査により2名を採択 ✓ 採択者は「農作物の加工販売」「時代に合わせた自動車産業のシフト」という地域課題を解決しうる事業拡大 ✓ 不採択であった2名についても、継続的に面談し、新規事業を立ち上げ
事業創出コミュニティ 組成支援	✓ コミュニティ組成の試行「UNNANメイカーズサロン」5回実施 ✓ 新規事業検討中の事業者を中心とした先進地視察（西粟倉村）1回実施 ✓ 里山クリエイター基金から5団体に助成
幸雲南塾2021	✓ 2シリーズ（各3回）を実施し夏季3組・冬季8組（延11組）参加 ✓ 5名以上の塾生同士でコラボレーション企画が生まれ、お互いにお互いのプランを協力し合い進める仲間づくり
ローカルベンチャー 協議会	✓ ローカルベンチャーラボへの接続2名 ✓ 森あそび研究プロジェクトにおいて地域外人材との接続 ✓ 日本郵政のローカル共創イニシアティブにおいて雲南市に2名の出向決定

スペチャレホープ実績 (参考：実施報告書10-14頁, 25-26頁)



2021年度の達成目標

- 広報強化により応募10件、採択3~5件
- R4年度に向け、補助金の増額や補助条件緩和を検討
- 過去の採択者の現状を含め、活動状況の記事・動画掲載

応募4件
採択2件

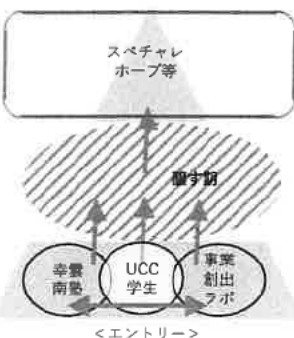
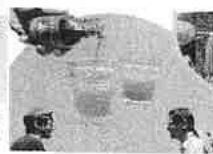
下記の
制度改革

動画○
記事未達

スペチャレ申請者一覧 (R3年度)

このほか事前相談を14組に実施

申請書(敬称略)	採択内容	採択可否	到達度
雲南産スパイス加工品製造・販売	スパイス作物を雲南で栽培し、雲南市内で加工する事業を新たに開始したい	採択	10月加工製造施設を建設。2021年度収穫したスパイス作物で試製販売。
軽トラレンタルサービス事業	軽トラのレンタルサービスとともに、新たなアクティビティを伴う軽トラ利用を促進し、雲南の暮らしを豊かにする。	採択	軽トラを改良し、移動式キャンピングカーとしてサービス展開予定(4月~) また自主組織を顧客として軽トラレンタルサービスをスタート。
	雲南でオーガニック農作物を作っている農家と連携し、オーガニックの作物のみを使ったお菓子製造し、その魅力を伝える店舗を経営したい。	不採択	不採択であったものの、12月に実店舗をオープン。雲南市内のオーガニック農家とも繋がりを作っている。
	販賣野菜を廃棄するのではなく、農家の収入になるよう加工し商品開発を行う。	不採択	不採択であったものの、雲南市木次町葛村に新たに夕食付の貸し宿をオープン。



22歳以下の動画編集コンテスト
過去の採択者のインタビュー
優秀作品を制作・公開



共創会議でのスペチャレ制度改革検討(3回の協議と個別説明実施)

概ね以下の内容で、制度の運用を改善することについて合意した。

- ✓ 市民を笑顔にし雲南市の発展に貢献するソーシャル「ビジネス」の支援を目的
- ✓ 審査会までの準備の段階で、委員から申請者に助言できる機会をつくること
- ✓ 事業性に関しては金融機関を含む部会で審査をして、共創会議は社会性審査に注力
- ✓ 採択後においても委員が定期的に採択者と対話をする機会

事業創出コミュニティ実績 (参考：実施報告書14~23頁)



2021年度の達成目標

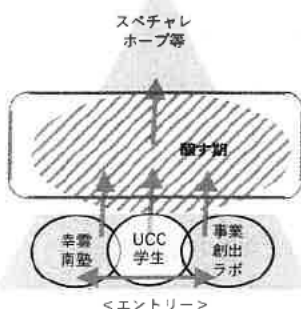
- 事業化に向けた学習後押しの要点が明確になる
- コミュニティを運営できる市民チーム(非おっちラボ)の骨格が見える
- 参加者の3組程度が次期のスペチャレ・ホープへ
- 参加者の5組程度が次期のローカルベンチャーラボへ

傾聴<会話量
具体テーマを軸

未達

3組

0組



プロジェクト	内容	参加者
うなんんメイカーズサロン	起業家や事業者の想いを語り下ろすことで相互理解と連携のきっかけづくり(5回)	7名参加
里山クリエイター基金	うなんんコミュニティ財団に基金を設置し、里山空間を身近にする取り組みに助成。集合研修も実施。森林スポーツ、学校林活用、養蜂、道開きなどを支援	5組に助成
テーマ別勉強会	コーチングやダイアログの方法論(3回) プログラミング教育事業の先進事例検討会	計10名参加
西粟倉村視察	林業を軸とするローカルベンチャーおよび支援組織の視察	15名参加

(参考：実施報告書4～10頁)



- 受講者6~10組（→ 醸す期コミュニティ・LVラボへ）
- 地域おせっかい会議・コミュニティ財団との連携確立

報告会
の共催

参加者30名

- ・ 〇〇さん『雲南の資源を集めたECサイトづくり』
- ・ 〇〇さん
『うんなんの食と健康のコミュニティあそびばキッチン』
- ・ 〇〇さん『ちょこぼうさいと〇〇ぼうさい』



参加者40名 + 配信

- ・ さん『雲南でつながる・広がる「あそびばキッチン」』
- ・ さん『ソフトから防災を支えるビジネスづくり』
- ・ さん『ドラゴンメイズ10万人プロジェクト』
- ・ さん『ご当地エネルギーの下地作り』
- ・ さん『こどもたちの「今日、何する？」を作るプロジェクト』
- ・ さん『うなぎで起こすローカルイノベーション』
- ・ さん『みんなで作るCAFE』

ein

ローカルベンチャー
協議会



(実施報告書23~24頁、18~21頁)

森あそびラボ：2022年度以降のモデルづくりの基盤となるネットワーク形成とビジョン共有

①森あそびビヨンドミーティング



- 完結：
2021年度は累計、121の全23契約の
アフターオーナー 101名
無償者 11名のみ

- [illegible]

②50年後の森検討会

日曜とテーマ

第1回 12月8日(土)午後19時～20時30分
テーマ: マダマ・ワグネルバイク、トシイル整頓と素材整理
講師: トシイルのワグネル氏 名取 道比

第2回 1月13日(木)午後19時～20時30分
テーマ：新の多様な活用の可能性
講師：日本フォレストグループ代表 小森 昌樹氏

第1回 2月10日(木)午後19時～20時30分
テーマ：森林環境教育と税の活用
講師：日本フォレスト・IC代表 山本 雄樹氏

第4回 3月9日(水)午後19時～20時30分
テーマ 日暮岩温泉リゾートの発展と成長
講師 株式会社日暮岩リゾート 代表取締役 日暮 隆雄

累加对象:

山林所有者、行政職責

参加者数
の減少

0.564%

目的：

森林空間利用の先進事例を知ることで、木材生産作家からの転業促進の検討等、森林環境関係者を活用するための新たな取組を得る。

実施する中で見えてきたこと：

- ・「地球に於ける資源を世界に均等に配分して自国を富む」とは、
資源開拓が地球にそれを消費するものではない。使ひ方は消費の
方式である。
- ・マントゥエンパと政府が協定を結ぶという事例がある。森を
伐りて移せば良きことで、森の管理も誰か一人が責任を負う。
森はアフリカに属するところと云ふことは、森林破壊を阻止する
ことができない。
- ・森林に於ける資源は均等に分配するに過ぎない。資源は、
多量で無駄に消費、無知で過剰を信じて市場競争や暴民蜂起、
たばこなど嗜好品もある。
- ・山が利用し得るものを全て企業家の要求にあわせる。

雲南においては、
(株)なべたたら[®]の山林空間活用事業
へのアイデア出しや
マウンテンバイクトレイルの専門家を
コーディネート

ローカルペンチャーラボに2名接続

さん
さん



日本郵政より2名の出向を獲得

■さん： CNCにてナスくる事業立ち上げ
■さん： 当法人にて地域資産（山・空き家・金融資産等）の循環の仕組みづくり

その他の実績

生態系づくりおよび案件発掘

(1) チャレンジ創生PT会議等ソーシャルチャレンジを加速する取り組みへの継続関与

- PT会議出席
- チャレンジ生態系を支える資金調達の仕事みである公益財団法人うんなんコミュニティ財団の伴走支援を実施（休眠預金等活用事業や資金調達への助言等）

(2) その他地域課題解決にかかる案件組成や資金調達協議

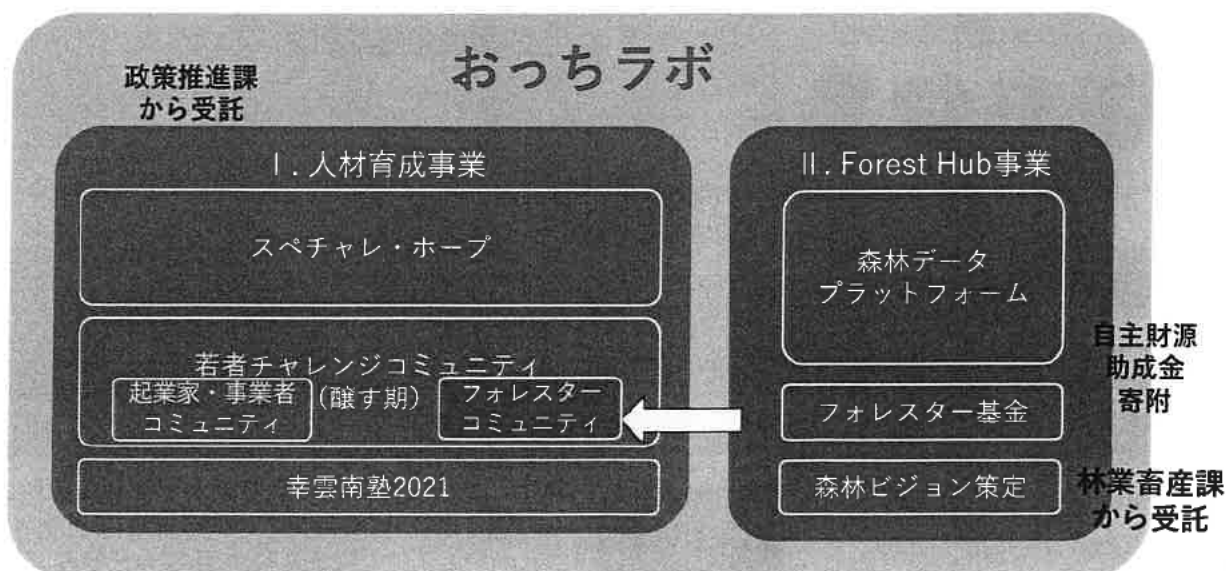
助成金申請のサポートなどをした団体・事業

- 実践型インターン事業
- 地域交通事業
- 地域ぐるみの子育て支援事業
- 地域の八百屋の承継に関する事業
- 精神障害者の居場所づくりの事業
- ドローンを活用した移動販売/物流の事業
- 綿花栽培と衣料品製造販売の事業
- オーガニックタウン構想 等

幸雲南塾/スペチャレ・ホープのインパクトレポート



第9期事業計画概要（再掲）



II. Forest Hub事業報告要旨



事業名	成果
森林データプラットフォーム	✓ PwCコンサルティングよりプロボノ支援を受け（～9月）、データプラットフォームのビジネスモデルを検討。7月に市民とのワークショップ開催 ✓ 事業再構築補助金約400万円の採択を受け、データプラットフォーム構築のためのチームを結成（技術支援、構築担当者、市場調査などの役割） ✓ 補助期間終了後のビジネス展開に向けて専門家と戦略会議を開催
里山クリエイター基金	✓ 当法人より100万円を拠出し、うなんコミュニティ財団に「たたらの里山クリエイター基金」を設置し、募集・選考を実施。 ✓ 1の人材育成において活動をサポート
林業振興ビジョン策定	✓ 林業畜産課との協議により受託しないことを決定。 ✓ 当法人において既存の林業関係者と合意形成しながら仕組みを作るリソースが不足しているため、2021年度は民間主導での小さなモデルづくりに注力し、次年度以降このモデルの意義を林業振興ビジョンの中に位置づけてもらうことを目指した。 ✓ 2022年度、データプラットフォームおよび山林活用人材育成において林業畜産課との連携について協議を開始した。

データプラットフォーム事業実績

参考：雲南フォレストハブ概要



実証実験のテーマと方向性の明確化 / 実施体制の構築

(1) 特定規定材のマッチングサービスの構成イメージ



(2) 山林資産可視化サービスの構成イメージ



(3) 住民生活課題解決サービスの構成イメージ



<プロジェクト実施体制>

- ESRIジャパン（ArcGIS技術支援）
- [redacted] さん（アプリ制作、木材流通調査）
- [redacted] さん（山林資産調査）
- 飯石自主組織/[redacted] さん、[redacted] さん（獣害調査）
- 地域ICT研究所 [redacted] さん（事業構築戦略）

第 7 期

決 算 報 告 書

平成 31 年 4 月 1 日から
令和 2 年 3 月 31 日まで

所 在 地 島根県雲南市木次町木次29番地

商 号 特定非営利活動法人おっちラボ

代表者名 小俣 健三郎

貸 借 対 照 表

特定非営利活動法人 おっちラボ
全事業所

[税込] (単位:円)
2020年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	1,404,867
現 金	50,591	前 受 金	30,000
普通 預金 (663)	6,554,674	預 り 金	231,317
普通 預金 (ゆうちょ)	1,320,020	未払法人税等	194,400
現金・預金 計	7,925,285	未払消費税等	531,400
(売上債権)		流動負債 計	2,391,984
未 収 金	895,331	負債合計	2,391,984
売上債権 計	895,331	正 味 財 産 の 部	
(棚卸資産)		【正味財産】	
棚卸 資産	26,608	前期繰越正味財産額	6,850,791
棚卸資産 計	26,608	当期正味財産増減額	332,049
(その他流動資産)		正味財産 計	7,182,840
仮 払 金	10,000	正味財産合計	7,182,840
その他流動資産 計	10,000		
流動資産合計	8,857,224		
【固定資産】			
(無形固定資産)			
ソフトウェア	417,600		
無形固定資産 計	417,600		
(投資その他の資産)			
投資有価証券	300,000		
投資その他の資産 計	300,000		
固定資産合計	717,600		
資産合計	9,574,824	負債及び正味財産合計	9,574,824

特定非営利活動に係る事業会計損益計算書

特定非営利活動法人 おっちラボ
全事業所

[税込] (単位: 円)

自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日

【経常収益】

【受取会費】

正会員受取会費 48,000

【受取寄付金】

受取寄付金 1,315,164

【事業収益】

事業 収益 4,325,492

受託事業収益 22,740,611

【その他収益】

受取 利息 69

雑 収 益 54,700

経常収益 計

28,484,036

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

給料 手当(事業) 8,782,214

通 勤 費(事業) 230,676

法定福利費(事業) 2,067,516

人件費計 11,080,406

(その他経費)

売上 原価 93,929

業務委託費 2,477,400

諸 謝 金 1,717,262

印刷製本費(事業) 319,492

旅費交通費(事業) 2,130,360

通信運搬費(事業) 161,373

消耗品 費(事業) 305,241

接待交際費(事業) 14,624

研 修 費 301,440

支払寄付金 8,000

その他経費計 7,529,121

事業費 計

18,609,527

【管理費】

(人件費)

給料 手当 1,528,540

役員 報酬 4,560,000

通 勤 費 67,596

法定福利費 279,247

福利厚生費 49,485

人件費計 6,484,868

(その他経費)

会 議 費 39,090

通信運搬費 297,751

消耗品 費 57,848

地代 家賃 120,000

広告宣伝費 433,602

特定非営利活動に係る事業会計損益計算書

特定非営利活動法人 おっちラボ

[税込] (単位: 円)

全事業所

自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日

接待交際費	23,450	
新聞図書費	10,245	
減価償却費	172,800	
諸 会 費	99,600	
リース 料	196,992	
租税 公課	1,128,100	
支払手数料	120,514	
雑 費	163,200	
その他経費計	2,863,192	
管理費 計		9,348,060
経常費用 計		27,957,587
当期経常増減額		526,449 ✓
【経常外収益】		
経常外収益 計		0
【経常外費用】		
経常外費用 計		0
税引前当期正味財産増減額		526,449
法人税、住民税及び事業税		194,400
当期正味財産増減額		332,049 ✓
前期繰越正味財産額		6,850,791
次期繰越正味財産額		7,182,840

2019年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人おっちラボ

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

2 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
無形固定資産						
ソフトウェア	864,000			864,000	446,400	417,600
投資その他の資産						
投資有価証券	300,000			300,000	0	300,000
合計	1,164,000			1,164,000	446,400	717,600

3. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

4. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・ 事業費と管理費の案分方法

按分ではなく、科目毎に個別判断をしている。

監査報告書

2020年5月12日

特定非営利活動法人おっちラボ
代表理事 小俣 健三郎 殿

監事

木村 守登

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人おっちラボの2019年度の事業報告書及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

私は、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、必要と認める場合には質問を行った。また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の業務は法令、定款及び2019年度の活動方針、事業計画に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

よって、私は、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人おっちラボの2020年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財政状態を適正に表示しているものと認める。

以上

第 8 期

決 算 報 告 書

令和 2 年 4 月 1 日から
令和 3 年 3 月 31 日まで

所 在 地 島根県雲南市木次町木次 2 9 番地

商 号 特定非営利活動法人おっちラボ

代表者名 小俣 健三郎

貸 借 対 照 表

特定非営利活動法人 おっちラボ
全事業所

[税込] (単位:円)
2021年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	588,288
現 金	6,749	前 受 金	6,000
普通 預金 (663)	1,172,172	預 り 金	173,999
普通 預金 (957)	1	未払法人税等	81,000
普通 預金 (ゆうちょ)	1,331,032	未払消費税等	357,700
現金・預金 計	2,509,954	流動負債 計	1,206,987
(売上債権)		負債合計	1,206,987
未 収 金	2,229,622	正 味 財 産 の 部	
売上債権 計	2,229,622	【正味財産】	
(棚卸資産)		前期繰越正味財産額	7,182,840
棚卸 資産	11,340	当期正味財産増減額	△3,394,111
棚卸資産 計	11,340	正味財産 計	3,788,729
流動資産合計	4,750,916	正味財産合計	3,788,729
【固定資産】			
(無形固定資産)			
ソフトウェア	244,800		
無形固定資産 計	244,800		
固定資産合計	244,800		
資産合計	4,995,716	負債及び正味財産合計	4,995,716

活 動 計 算 書

[税込] (単位:円)

特定非営利活動法人 おっちラボ

自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日

【経常収益】

【受取会費】

正会員受取会費 66,000

【受取寄付金】

受取寄付金 15,000

【事業収益】

事業 収益 383,350

受託事業収益 19,665,622 20,048,972

【その他収益】

受取 利息 52

雑 収 益 32,970 33,022

経常収益 計 20,162,994

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

給料 手当(事業) 675,000

通 勤 費(事業) 46,243

法定福利費(事業) 758,855

人件費計 1,480,098

(その他経費)

売上 原価 15,268

業務委託費(事業) 7,866,750

諸 謝 金(事業) 1,571,600

印刷製本費(事業) 141,294

旅費交通費(事業) 833,759

通信運搬費(事業) 234,375

消耗品 費(事業) 20,256

研 修 費(事業) 215,500

支払寄付金(事業) 1,005,000

その他経費計 11,903,802

事業費 計 13,383,900

【管理費】

(人件費)

給料 手当 1,082,000

役員 報酬 4,560,000

退 職 金 1,713,000

通 勤 費 7,092

法定福利費 222,534

福利厚生費 12,969

人件費計 7,597,595

(その他経費)

会 議 費 6,600

旅費交通費 1,500

通信運搬費 235,832

消耗品 費 41,536

地代 家賃 360,000

活 動 計 算 書

[税込] (単位:円)

特定非営利活動法人 おっちラボ

自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日

広告宣伝費	572,000		
新聞図書費	1,850		
減価償却費	172,800		
諸 会 費	45,600		
リース 料	140,832		
租税 公課	996,310		
支払手数料	54,750		
雑 費	165,000		
その他経費計	2,794,610		
管理費 計		10,392,205	
経常費用 計			23,776,105
当期経常増減額			△3,613,111
【経常外収益】			
有価証券売却益		300,000	
経常外収益 計			300,000
【経常外費用】			
経常外費用 計			0
税引前当期正味財産増減額			△3,313,111
法人税、住民税及び事業税			81,000
当期正味財産増減額			△3,394,111
前期繰越正味財産額			7,182,840
次期繰越正味財産額			3,788,729

2020年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人おっちラボ

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

2 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
無形固定資産						
ソフトウェア	864,000			864,000	△ 619,200	244,800
投資その他の資産						
投資有価証券	300,000		300,000	0	0	0
合計	1,164,000		300,000	864,000	619,200	244,800

3. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

4. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・ 事業費と管理費の案分方法

按分ではなく、科目毎に個別判断をしている。

監査報告書

2021年 5 月 24日

特定非営利活動法人おっちラボ
代表理事 小俣 健三郎 殿

監 事 木村 守 登 

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人おっちラボの2020年（令和2年）度の事業報告書及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

私は、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、必要と認める場合には質問を行った。また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の業務は法令、定款及び2020年度の活動方針、事業計画に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

よって、私は、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人おっちラボの2021年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財政状態を適正に表示しているものと認める。

以上

決 算 報 告 書

第 9期

自 2021年 4月 1日

至 2022年 3月31日

特定非営利活動法人 おっちラボ

島根県雲南市木次町木次29番地

貸 借 対 照 表

特定非営利活動法人 おっちラボ
全事業所

[税込] (単位: 円)
2022年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	555,834
現 金	3,523	預 り 金	208,807
普通 預金 (663)	2,493,421	未払法人税等	81,800
普通 預金 (957)	1	未払消費税等	300,300
普通 預金 (ゆうちょ)	331,043	流動負債 計	1,146,741
現金・預金 計	2,827,988	負債合計	1,146,741
(売上債権)		正 味 財 産 の 部	
未 収 金	85,800	【正味財産】	
売上債権 計	85,800	前期繰越正味財産額	3,788,729
(棚卸資産)		当期正味財産増減額	△ 1,940,610
棚卸 資産	9,072	正味財産 計	1,848,119
棚卸資産 計	9,072	正味財産合計	1,848,119
流動資産合計	2,922,860		
【固定資産】			
(無形固定資産)			
ソフトウェア	72,000		
無形固定資産 計	72,000		
固定資産合計	72,000		
資産合計	2,994,860	負債及び正味財産合計	2,994,860

財 産 目 録

特定非営利活動法人 おっちラボ
全事業所

[税込] (単位: 円)
2022年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現 金	3,523
普通 預金 (663)	2,493,421
普通 預金 (957)	1
普通 預金 (ゆうちょ)	331,043
現金・預金 計	2,827,988

(売上債権)

未 収 金	85,800
売上債権 計	85,800

(棚卸資産)

棚卸 資産	9,072
棚卸資産 計	9,072

流動資産合計

2,922,860

【固定資産】

(無形固定資産)

ソフトウェア	72,000
無形固定資産 計	72,000

固定資産合計

72,000

資産の部 合計

2,994,860

《負債の部》

【流動負債】

未 払 金	555,834
預 り 金	208,807
未払法人税等	81,800
未払消費税等	300,300

流動負債 計

1,146,741

負債の部 合計

1,146,741

正味財産

1,848,119

活 動 計 算 書

特定非営利活動法人 おっちラボ

[税込] (単位: 円)
自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日

【経常収益】

【受取会費】

正会員受取会費 60,000

【受取助成金等】

受取助成金 500,000

【事業収益】

事業 収益 798,780

受託事業収益 15,819,657 16,618,437

【その他収益】

受取 利息 41

雑 収 益 24,638 24,679

経常収益 計

17,203,116

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

法定福利費(事業) 693,424

人件費計 693,424

(その他経費)

売上 原価 2,268

賃 金 50,000

業務委託費(事業) 5,938,000

諸 謝 金(事業) 1,545,690

印刷製本費(事業) 144,820

会 議 費(事業) 122,285

旅費交通費(事業) 526,360

通信運搬費(事業) 229,226

消耗品 費(事業) 157,832

接待交際費(事業) 27,905

租税 公課(事業) 20,000

研 修 費(事業) 133,000

支払寄付金(事業) 1,005,000

雑 費(事業) 8,400

その他経費計 9,910,786

事業費 計

10,604,210

【管理費】

(人件費)

給料 手当 1,164,704

役員 報酬 4,560,000

法定福利費 102,032

福利厚生費 6,600

人件費計 5,833,336

(その他経費)

会 議 費 4,440

通信運搬費 118,314

消耗品 費 57,242

地代 家賃 360,000

広告宣伝費 722,568

接待交際費 3,156

新聞図書費 8,690

減価償却費 172,800

諸 会 費 60,600

リース 料 129,600

租税 公課 759,850

活 動 計 算 書

特定非営利活動法人 おっちラボ

[税込] (単位: 円)
 自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日

支払手数料	53,320		
雑 費	173,800		
その他経費計	2,624,380		
管理費 計		8,457,716	
経常費用 計			19,061,926
当期経常増減額			△ 1,858,810
【経常外収益】			
経常外収益 計			0
【経常外費用】			
経常外費用 計			0
税引前当期正味財産増減額			△ 1,858,810
法人税、住民税及び事業税			81,800
当期正味財産増減額			△ 1,940,610
前期繰越正味財産額			3,788,729
次期繰越正味財産額			1,848,119

特定非営利活動に係る事業会計損益計算書

特定非営利活動法人 おっちラボ
全事業所

[税込] (単位: 円)

自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日

【経常収益】		
【受取会費】		
正会員受取会費	60,000	
【受取助成金等】		
受取助成金	500,000	
【事業収益】		
事業 収益	798,780	
受託事業収益	15,819,657	
【その他収益】		
受取 利息	41	
雑 収 益	24,638	
経常収益 計		17,203,116
【経常費用】		
【事業費】		
(人件費)		
法定福利費(事業)	693,424	
人件費計	693,424	
(その他経費)		
売上 原価	2,268	
賞 金	50,000	
業務委託費(事業)	5,938,000	
諸 謝 金(事業)	1,545,690	
印刷製本費(事業)	144,820	
会 議 費(事業)	122,285	
旅費交通費(事業)	526,360	
通信運搬費(事業)	229,226	
消耗品 費(事業)	157,832	
接待交際費(事業)	27,905	
租税 公課(事業)	20,000	
研 修 費(事業)	133,000	
支払寄付金(事業)	1,005,000	
雑 費(事業)	8,400	
その他経費計	9,910,786	
事業費 計		10,604,210
【管理費】		
(人件費)		
給料 手当	1,164,704	
役員 報酬	4,560,000	
法定福利費	102,032	
福利厚生費	6,600	
人件費計	5,833,336	
(その他経費)		
会 議 費	4,440	
通信運搬費	118,314	
消耗品 費	57,242	
地代 家賃	360,000	
広告宣伝費	722,568	
接待交際費	3,156	
新聞図書費	8,690	
減価償却費	172,800	
諸 会 費	60,600	
リース 料	129,600	
租税 公課	759,850	

特定非営利活動に係る事業会計損益計算書

特定非営利活動法人 おっちらボ
全事業所

【税込】（単位：円）

自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日

支払手数料	53,320	
雑 費	173,800	
その他経費計	2,624,380	
管理費 計		8,457,716
経常費用 計		19,061,926
当期経常増減額		△ 1,858,810
【経常外収益】		
経常外収益 計		0
【経常外費用】		
経常外費用 計		0
税引前当期正味財産増減額		△ 1,858,810
法人税、住民税及び事業税		81,800
当期正味財産増減額		△ 1,940,610
前期繰越正味財産額		3,788,729
次期繰越正味財産額		1,848,119

財務諸表の注記

特定非営利活動法人 おっちラボ

2022年 3月31日 現在

【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

【会計方針の変更】

特になし

【事業費の内訳】

事業費の区分は以下の通りです。

産業・地域づくり人材育成事業 86,012円
教育事業 22,368円
地域資源活用事業 12,415円
広報・プロモーション事業 4,000円

部門件数が1ページ内の最大を超えました。明細は別紙に出力します。

【施設の提供等の物的サービスの受入の内訳】

特になし

△] (単位: 円)

内容	金額	算定方法

【活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳】

特になし

△] (単位: 円)

内容	金額	算定方法

【使途等が制約された寄付等の内訳】

特になし

△] (単位: 円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
合計					

【固定資産の増減内訳】

特になし

△] (単位: 円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
(棚卸資産)						
棚卸 資産	864,000	0	0	864,000	△ 792,000	72,000
合計	864,000	0	0	864,000	△ 792,000	72,000

【借入金の増減内訳】

特になし

△] (単位: 円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
合計				

【役員及びその近親者との取引の内容】

特になし

△] (単位: 円)

科目	表に計上され	及び近親者との
(活動計算書)		
活動計算書計		

【その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項】

任意団体「おっちラボ」の解散に伴い、残余財産524,637円を受取寄付金として計上。

事業費の内訳（別紙）

特定非営利活動法人 おっちラボ

2022年 3月31日 現在

(1/4)

△] (単位：円)

科目	全体管理	支援組織育成確	解決型人材育成	市民参画促進事業	career for
(人件費)					
法定福利費(事業)			601,002		
人件費計	0	0	601,002	0	0
(その他経費)					
期首棚卸高					
期末棚卸高					
賞 金			50,000		
業務委託費(事業)	99,000		5,619,000		
諸 謝 金(事業)			1,268,050		
印刷製本費(事業)			144,820		
会 議 費(事業)			122,285		
旅費交通費(事業)			521,360		
通信運搬費(事業)	690		228,192		
消耗品 費(事業)			157,832		
接待交際費(事業)	27,905				
租税 公課(事業)			20,000		
研 修 費(事業)			133,000		
支払寄付金(事業)	1,005,000				
雑 費(事業)			8,400		
その他経費計	1,132,595	0	8,272,939	0	0
合計	1,132,595	0	8,873,941	0	0

(2/4)

△] (単位：円)

科目	視察・研修受入	講師派遣	オフィス管理	林業支援事業	業務代行事業
(人件費)					
法定福利費(事業)				92,422	
人件費計	0	0	0	92,422	0
(その他経費)					
期首棚卸高					
期末棚卸高					
賞 金					
業務委託費(事業)					
諸 謝 金(事業)	60,500				
印刷製本費(事業)					
会 議 費(事業)					
旅費交通費(事業)				5,000	
通信運搬費(事業)	344				
消耗品 費(事業)					
接待交際費(事業)					
租税 公課(事業)					
研 修 費(事業)					
支払寄付金(事業)					
雑 費(事業)					
その他経費計	60,844	0	0	5,000	0
合計	60,844	0	0	97,422	0

(3/4)

△] (単位：円)

科目	訪問看護事業	ユニティーナ	食料品販売	雑貨販売	イベント出店
----	--------	--------	-------	------	--------

(人件費)					
法定福利費(事業)					
人件費計	0	0	0	0	0
(その他経費)					
期首棚卸高					
期末棚卸高					
賞 金					
業務委託費(事業)					
諸 謝 金(事業)					
印刷製本費(事業)					
会 議 費(事業)					
旅費交通費(事業)					
通信運搬費(事業)					
消耗品 費(事業)					
接待交際費(事業)					
租税 公課(事業)					
研 修 費(事業)					
支払寄付金(事業)					
雑 費(事業)					
その他経費計	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0

(4/4)

△] (単位：円)

科目	(区分不明)	合計
(人件費)		
法定福利費(事業)		693,424
人件費計	0	693,424
(その他経費)		
期首棚卸高	11,340	11,340
期末棚卸高	△ 9,072	△ 9,072
賞 金		50,000
業務委託費(事業)	220,000	5,938,000
諸 謝 金(事業)	217,140	1,545,690
印刷製本費(事業)		144,820
会 議 費(事業)		122,285
旅費交通費(事業)		526,360
通信運搬費(事業)		229,226
消耗品 費(事業)		157,832
接待交際費(事業)		27,905
租税 公課(事業)		20,000
研 修 費(事業)		133,000
支払寄付金(事業)		1,005,000
雑 費(事業)		8,400
その他経費計	439,408	9,910,786
合 計	439,408	10,604,210

監査報告書

2022年 5月 23日

特定非営利活動法人おっちラボ
代表理事 小俣 健三郎 殿

監 事

木村 守登

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人おっちラボの2021年（令和3年）度の事業報告書及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

私は、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、必要と認める場合には質問を行った。また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の業務は法令、定款及び2021年度の活動方針、事業計画に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

よって、私は、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人おっちラボの2022年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財政状態を適正に表示しているものと認める。

以上